■困ったときは（サポートのご案内）

ホームページで調べる

サイバーショットおよび付属ソフトウェアの最新サポート情報（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など）はこちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/

サイバーショットの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。英語の取扱説明書のダウンロードもできます。
(English manual download service is available.)

メモリースティック対応表
使用可能な"メモリースティック"を確認できます。
http://www.sony.co.jp/mstaiou/

電話で問い合わせる（おかけ間違いにご注意ください。）

テクニカルインフォメーションセンター
電話：0564-62-4979
受付時間：月～金曜日：午前9時～午後8時
土、日曜日、祝日：午前9時～午後5時
お問い合わせの際は、本機をお手元にご用意ください。

指定宅配便での修理品のお引取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。テクニカルインフォメーションセンターへお電話いただくか、WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-repair/

■カスタマー登録のご案内

カスタマー登録していただくと、安心・便利な各種サポートが受けられます。詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

登録後は登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/contact/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35　http://www.sony.co.jp/

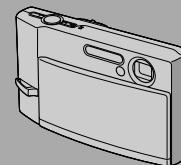
この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

SONY

Cyber-shot

サイバーショット取扱説明書

活用編・困ったときは

DSC-T30

「はじめにお読みください」（別冊）
本機を使うための準備と、基本的な撮影・再生の方法を説明しています。

⚠警告 **電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。本書と別冊の「サイバーショット取扱説明書 はじめにお読みください」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

2-675-572-**01** (1)

商標について

- Cyber-shotはソニー株式会社の商標です。
- "Memory Stick"、"メモリースティック"、MEMORY STICK™、"Memory Stick PRO"、"メモリースティック PRO"、MEMORY STICK PRO、"Memory Stick Duo"、"メモリースティック デュオ"、MEMORY STICK DUO、"Memory Stick PRO Duo"、"メモリースティックPRO デュオ"、MEMORY STICK PRO DUO、"MagicGate"、"マジックゲート"およびMAGICGATEはソニー株式会社の商標です。
- "InfoLITHIUM(インフォリチウム)"はソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows、DirectXは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、iMac、iBook、PowerBook、Power Mac、eMacはApple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- Intel、MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

⚠警告 安全のために

→ *110 ～ 112ページも あわせてお読みください。*

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷がないか、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやバッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにテクニカルインフォメーションセンターへご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら
煙が出たら

❶ **電源を切る**
❷ **電池をはずす**
❸ **テクニカルインフォメーションセンターに連絡する**

裏表紙に**テクニカルインフォメーションセンターの連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂のおそれがあります。**
❷ **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**
❸ **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**
❹ **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

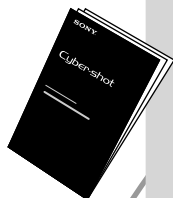
プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。

サイバーショットを楽しむために

まずは準備をして、簡単に撮影しよう！

別冊「はじめにお読みください」

1 バッテリーを準備する

2 電源を入れ、時計を合わせる

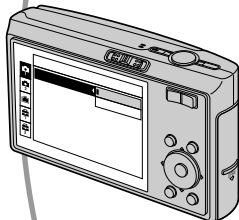
3 "メモリースティック デュオ"（別売）を入れる

4 用途に合わせて画像サイズを決める

5 簡単に撮る（オート撮影）
場面に合わせて静止画を撮る（シーンセレクション）

6 画像を見る/削除する

本書では、→*別冊「はじめに」*とご案内しています。

少し慣れたら、本機の機能を使いこなそう！ ***本書***

- お好みの設定で撮影する（プログラムオート撮影）→25ページ
- スライドショーを使って画像を楽しむ→27ページ
- メニューを使って、さまざまな撮影/再生を楽しむ→30ページ
- 本機のお買い上げ時の設定を変える→48ページ

さらに、パソコンやプリンターとつないで楽しもう！ ***本書***

- 画像をパソコンに取り込んで活用→61ページ
- 本機をプリンターに直接つないでプリント（PictBridge対応プリンターのみ）→80ページ

目次

サイバーショットを使いこなそう

メニューを使う

セットアップ画面を使う

パソコンで楽しむ

お使いになる前に必ずお読みください

本機で使用できる“メモリースティック”(別売)

本機で使用するIC記録メディアは“メモリースティック デュオ”(“Memory Stick Duo”)です。“メモリースティック”のサイズには2種類あります。

“メモリースティック デュオ”:本機で使用可能です。

“メモリースティック”:本機では使用できません。

その他のメモリーカードは使用できません。

- “メモリースティック デュオ”について詳しくは、102ページをご覧ください。

“メモリースティック デュオ”を“メモリースティック”対応機器で使用する場合

メモリースティック デュオ アダプター(別売)に入れると使用可能です。

メモリースティック
デュオ アダプター

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについてのご注意

- 初めてお使いになるときは、バッテリー(付属)を必ず充電してください。(→*別冊「はじめに」手順1*)
- バッテリーを使い切らない状態でも充電できます。また充電が完了しなくても途中まで充電した容量分はお使いいただけます。
- バッテリーを長持ちさせるために、長時間使用しない場合は、本機で使い切った後、バッテリーを取りはずして湿度の低い涼しい場所で保管してください(104ページ)。
- バッテリーについて詳しくは、104ページをご覧ください。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、シャープで、コントラストが良い画像を作り出すことを可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスの品質基準に基づき、カール ツァイスによって認定された品質保証システムにより生産されています。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

内蔵メモリーおよび“メモリースティック デュオ”のバックアップについて

アクセスランプ点灯中に電源を切ったり、バッテリーや“メモリースティック デュオ”を取り出したりすると、内蔵メモリーのデータや“メモリースティック デュオ”のデータが壊れることがあります。データ保護のため必ずバックアップをお取りください。

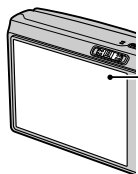
データのバックアップ方法は23ページをご覧ください。

録画・再生に際してのご注意

- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「使用上のご注意」もご覧ください(106ページ)。
- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

- 本機をぬらさないでください。水滴が内部に入り込むと、故障の原因になるだけでなく、修理できなくなることもあります。
- 日光および強い光に向けて本機を使用しないでください。故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください（106ページ）。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、記録メディアが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- フラッシュの表面の汚れは取り除いてください。発光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色したり、貼り付いたりすると、充分に発光できない場合があります。

液晶画面およびレンズについてのご注意

- 液晶画面は有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。

黒、白、赤、青、緑の点

- 液晶画面やレンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所で使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。
- 本機のレンズ部をぶつけたり、無理な力をかけないようご注意ください。

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格"Design rule for Camera File system"（DCF）に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

電波障害自主規制について

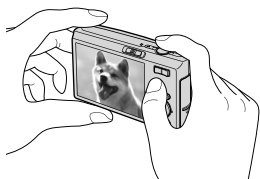
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書中の画像について

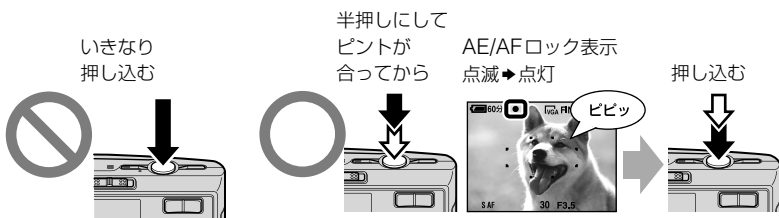
画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

表示言語について

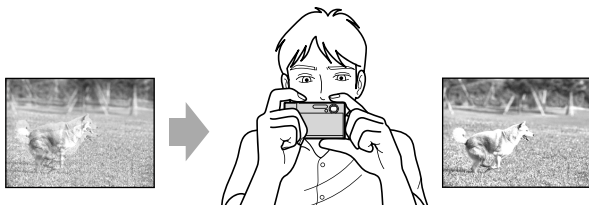
本機のメニュー項目や警告などの表示は、日本語のみに対応しております。

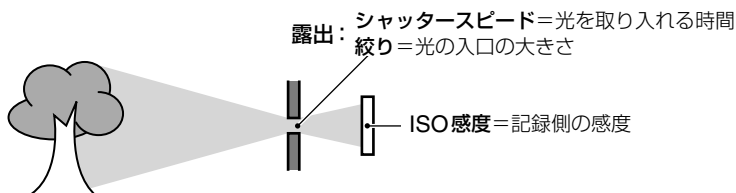
ステップアップのための基礎知識

ここでは、サイバーショットを使いこなすための基礎について説明します。
本機に搭載された多彩な機能は、モードスイッチ（25ページ）や、メニュー（30ページ）などで使うことができます。

ピント　クリアな画像を撮るために

本機はシャッターを半押しすることで、ピントを自動で合わせます（オートフォーカス）。
シャッターを半押しする習慣をつけましょう。

ピントがうまく合わないときは：→［フォーカス］（34ページ）
ピントを合わせても画像がクリアでないときは、手ぶれを起こしている場合があります：→次の［手ぶれを起こさないためのヒント］をご覧ください。

手ぶれを起こさないためのヒント

脇を締め、カメラをしっかり押さえてください。そばに木などがあれば寄りかかると安定します。セルフタイマーを２秒に設定して撮影したり、三脚を使用したり、手ぶれ補正をオンにしたりすることも効果的です。また、暗い場所ではフラッシュの使用もおすすめします。

露出　光の量を調整して好みの画像を撮る

露出と記録感度を調整することで、さまざまな仕上がりにすることができます。露出とはシャッターを切ったときに取り入れる光の量のことです。

露出オーバー
＝光が多すぎる
画面が白くなる

露出が適正

露出アンダー
＝光が少なすぎる
画面が暗くなる

本機は露出が適正になるように自動調整します（オート撮影時）が、以下の機能でお好みの状態に調整できます。

露出補正：
自動調節した露出を補正→33ページ

測光モード：
露出を自動調整する場所を変更
→36ページ

ISO感度の調整

ISOとは、光を受け取る撮像素子（写真フィルムに相当する部分）の感度をあらわす単位です。同じ露出で撮影しても、設定によって仕上がる画像が変わります。ISO感度を調整→37ページ

ISO感度が高い
露出が足りない場所でも、明るめに記録できます。
ただし、画像にざらつきが生じやすくなります。

ISO感度が低い
ざらつきの少ない画像を撮ることができます。
ただし露出が足りない場合は、画像は暗めに記録されることがあります。

色　光の影響について

被写体の見た目の色は、その場の光の影響を受けます。

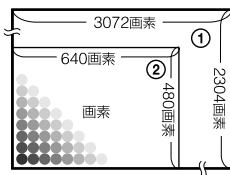
例:同じ色が光の影響で違って見えます

天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
光の特性	基準となる白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

本機はこの変化を適正にするように自動調整します(オート撮影時)が、[ホワイトバランス](36ページ)でお好みの色に調整できます。

画質　「画素」と「画像サイズ」について

デジタル写真は「画素(ピクセル)」という小さな点が集まって作られています。「画素」を多く使うと、写真は大きく、データ量は多く、画面は精細になります。「画像サイズ」とはこの画素数を指し、本機の画面では違いはわかりませんが、プリントしたりパソコンの画面で見たときに、写真の精細さやデータ処理時間に影響します。

画素と画像サイズのイメージ

① 画像サイズ:7M
3072画素×2304画素=7077888画素
② 画像サイズ:VGA(Eメール)
640画素×480画素=307200画素

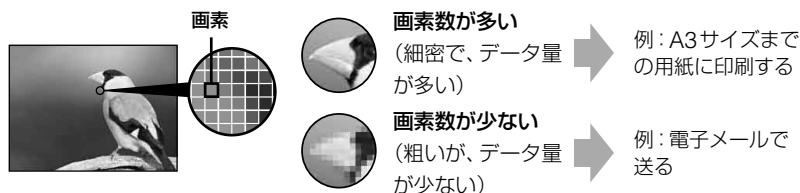
用途にあわせてサイズを選ぶ（→*別冊「はじめに」手順4*）

画素

画素数が多い
（細密で、データ量が多い）

例：A3サイズまでの用紙に印刷する

画素数が少ない
（粗いが、データ量が少ない）

例：電子メールで送る

お買い上げ時の設定は✔で示しています。

	静止画画像サイズ		用途の例
✔	7M（3072×2304）	大きい	A3サイズまでのプリント
	3:2[1]（3072×2048）	↑	縦横比3:2での撮影
	5M（2592×1944）		A4サイズまでのプリント
	3M（2048×1536）		2L判サイズまでのプリント
	2M（1632×1224）	↓	L判サイズまでのプリント
	VGA（640×480）	小さい	Eメールでの送付など
	16:9[2]（1920×1080）		ハイビジョンTVでの鑑賞[3]

1) 写真の印画紙、ポストカードなどと同じく3:2の縦横比で撮影します。
2) プリント時に両端が切れることがあります（96ページ）。
3) メモリースティックスロットやUSB経由で接続すると、より高画質でお楽しみいただけます。

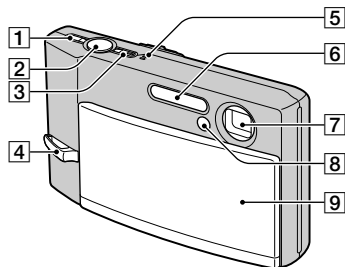
	動画画像サイズ	フレーム数/秒	用途の例
	640（FINE）（640×480）	約30枚	テレビでの鑑賞（高画質）
✔	640（STD）（640×480）	約17枚	テレビでの鑑賞（標準）
	160（160×112）	約8枚	Eメールでの送付など

- 画像サイズは大きいほど高精細になります。
- 1秒間に再生されるフレーム数は、多いほどなめらかな動きになります。

画質（圧縮率）設定をあわせて使う（37ページ）

デジタル写真を保存するときの圧縮率を変更できます。圧縮率を高くすると写真の精細さは落ちますが、データ量は少なくなります。

各部の名前

カッコ内の数字はページ数。

1 "手ぶれ補正"ボタン（→*別冊「はじめに」手順5*）

2 シャッターボタン（→*別冊「はじめに」手順5*）

3 POWER（パワー）ボタン/POWER（パワー）ランプ（→*別冊「はじめに」手順2*）

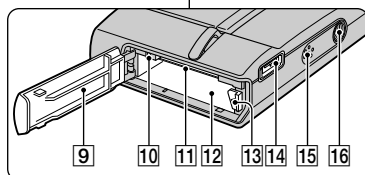
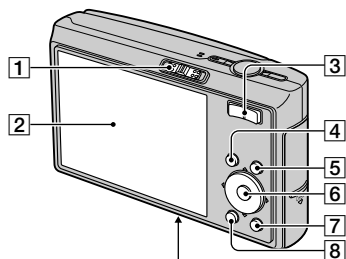
4 リストストラップ取り付け部（→*別冊「はじめに」*）

5 マイク

6 フラッシュ（→*別冊「はじめに」手順5*）

7 レンズ

8 セルフタイマーランプ（→*別冊「はじめに」手順5*）/AFイルミネーター（51）

9 レンズカバー（→*別冊「はじめに」手順2*）

1 モードスイッチ（25）

2 液晶画面（20）

3 撮影時：ズーム（W/T）ボタン（→*別冊「はじめに」手順5*）
再生時：⊖/⊕（再生ズーム）ボタン/
▦（インデックス）ボタン（→*別冊「はじめに」手順6*）

4 MENU（メニュー）ボタン（30）

5 ▭（画面表示切り換え）ボタン（20）

6 コントロールボタン
メニューオン時：▲/▼/◀/▶/●（→*別冊「はじめに」手順2*）
メニューオフ時：⚡/セルフタイマー/再生/マクロ（→*別冊「はじめに」手順5*）

7 スライドショー（スライドショー）ボタン（27）

8 画像サイズ/削除（画像サイズ/削除）ボタン（→*別冊「はじめに」手順4、6*）

9 バッテリー / “メモリースティック デュオ” カバー（→*別冊「はじめに」手順1、3*）

10 アクセスランプ（→*別冊「はじめに」手順4*）

11 “メモリースティック デュオ” 挿入口（→*別冊「はじめに」手順3*）

12 バッテリー挿入口（→*別冊「はじめに」手順1*）

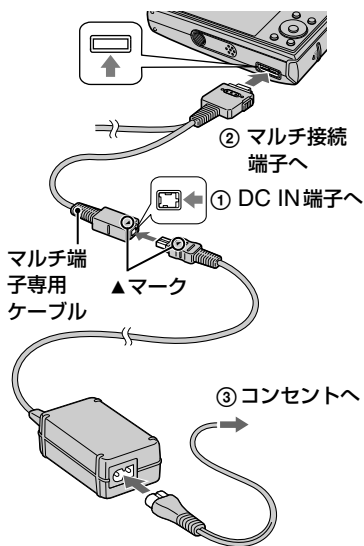
13 取りはずしつまみ（→*別冊「はじめに」手順1*）

14 マルチ接続端子（底面）
ACアダプター AC-LS5K（別売）を使うとき

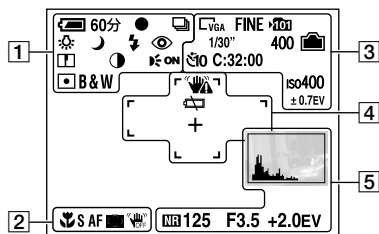
- 本機をACアダプター AC-LS5Kに接続してもバッテリーを充電できません。
バッテリーの充電には、バッテリーチャージャーをお使いください。*(→別冊「はじめに」手順1)*

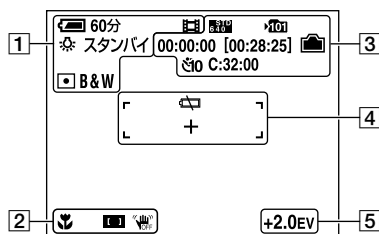
15 スピーカー

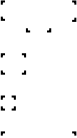
16 三脚用ネジ穴（底面）

- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚を使う。
ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

画面の表示

カッコ内の数字はページ数。

静止画撮影時

動画撮影時

1

表示	意味
60分	バッテリー残量(→*別冊「はじめに」手順 1*)
	AE/AFロック(→*別冊「はじめに」手順5*)
BRK	撮影モード(25、38)
WB	ホワイトバランス(36)
録画 スタンバイ	動画撮影/スタンバイ(→*別冊「はじめに」手順5*)
ISO	カメラモード(シーンセレクション)(→*別冊「はじめに」手順5*)
P	カメラモード(プログラム)(25)
SL	フラッシュモード(→*別冊「はじめに」手順5*)
	フラッシュ充電中
W T ×1.3 S P	ズーム(→49、*別冊「はじめに」手順5*)
	赤目軽減(50)
	シャープネス(40)
	コントラスト(40)
ON	AFイルミネーター (51)
	測光モード(36)
VIVID NATURAL SEPIA B&W	カラーモード(32)

2

表示	意味
	マクロ/拡大鏡モード撮影(→*別冊「はじめに」手順5*)
S AF M AF	AFモード(49)
	AF測距枠表示(34)
1.0m	フォーカスプリセット値(34)
OFF	手ぶれ補正オフ(→*別冊「はじめに」手順5*)

3

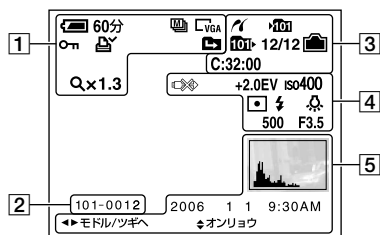
表示	意味
7M 3:2 5M 3M 2M 1M VGA 16:9 FINE 640 STD 640 160	画像サイズ(→*別冊「はじめに」手順4*) • 1Mは、マルチ連写のみ表示されます。
FINE STD	画質(37)
101	記録フォルダ(54) • 内蔵メモリー使用時は表示されません。
	内蔵メモリー残量(22)
	"メモリースティック"残量(21)
00:00:00 [00:28:05]	記録時間[最大記録可能時間](21)
1/30"	マルチ連写インターバル(39)
400	撮影残枚数(21)
10 2	セルフタイマー(→*別冊「はじめに」手順5*)
C:32:00	自己診断表示(99)
ISO400	ISO感度(37)
+0.7EV	ブラケット設定値(39)

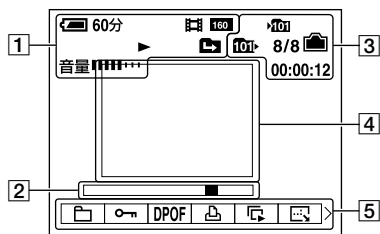
4

表示	意味
	手ぶれ警告(10) • 光量不足のため、手ぶれが起こりやすい状況を示しています。表示されていても撮影は可能ですが、手ぶれ補正をオンにする、または光量を増やすためにフラッシュを使ったり、三脚などで本機をしっかりと固定することをおすすめします。
	バッテリープリエンド(24、99)
+	スポット測光照準(36)
	AF測距枠(34)

5

表示	意味
	ヒストグラム(20、33)
NR	NRスローシャッター • 1/25秒またはそれよりも遅いシャッタースピードになると、自動的にNRスローシャッター機能が働き、画像ノイズを低減します。
125	シャッタースピード
F3.5	絞り値
+2.0EV	EV補正値(33)
COLOR WB (左の画面イラストには出ていません)	メニュー(30)

静止画再生時

動画再生時

1

表示	意味
60分	バッテリー残量（→*別冊「はじめに」手順1*）
	撮影モード（25、38）
7M 3:2 5M 3M 2M 1M VGA 16:9 FINE 640 STD 640 160	画像サイズ（→*別冊「はじめに」手順4*）
	プロテクト（41）
	プリント予約マーク（84）
	フォルダ移動（41） • 内蔵メモリー使用時は表示されません。
×1.3	ズーム（→*別冊「はじめに」手順6*）
コマ再生 12/16	コマ再生（38）
►	再生（→*別冊「はじめに」手順6*）
音量	音量（→*別冊「はじめに」手順6*）

2

表示	意味
101-0012	フォルダ-ファイル番号（41）
	再生バー（→*別冊「はじめに」手順6*）

3

表示	意味
	PictBridge接続(80)
101	記録フォルダ(54) • 内蔵メモリー使用時は表示されません。
101	再生フォルダ(41) • 内蔵メモリー使用時は表示されません。
	内蔵メモリー残量(22)
	"メモリースティック"残量(21)
8/8 12/12	画像番号/再生フォルダ内画像枚数
C:32:00	自己診断表示(99)
00:00:12	カウンター(→*別冊「はじめに」手順6*)

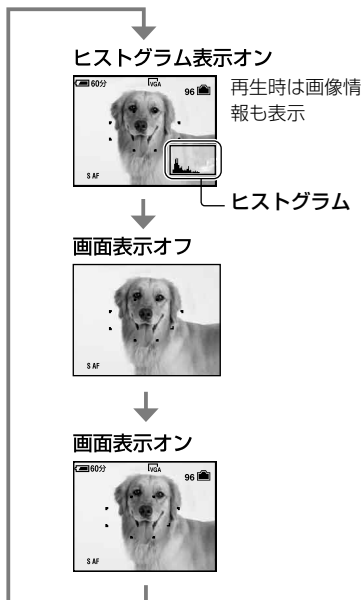
4

表示	意味
	PictBridge接続中(82) • マークが画面に表示されているときは、マルチ端子専用ケーブルを抜かないでください。
+2.0EV	EV補正値(33)
ISO400	ISO感度(37)
	測光モード(36)
	フラッシュ
WB AWB	ホワイトバランス(36)
500	シャッタースピード
F3.5	絞り値
	再生画像(→*別冊「はじめに」手順6*)

5

表示	意味
	ヒストグラム(20、33) • 表示不能のときは ⊗ が表示されます。
2006 1 1 9:30 AM	画像の記録日時
DPOF	メニュー(30)
●ポーズ ●サイセイ	マルチ連写画像の連続再生(38)
◄►モドル/ツギヘ	前後の画像を表示
♦オンリョウ	音量調節

画面表示を切り換える

[□](画面表示切り換え)ボタンを押すたびに、液晶画面の表示が以下のように切り換わります。

- [□](画面表示切り換え)ボタンを長押しして、バックライトの明るさを明るくすることもできます。
- 下記の場合、ヒストグラムは表示されません。
  – 撮影時：メニュー表示時/動画時
  – 再生時：メニュー表示時/インデックス再生時/再生ズーム時/静止画回転時/動画時
- 撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のとき大きく異なります。
  – フラッシュ発光したとき
  – シャッタースピードが遅い、速いとき
- 他機で撮影した画像はヒストグラムが表示されないことがあります。

静止画の記録可能枚数と動画の記録時間

本機でフォーマットした"メモリースティック デュオ"に記録できる撮影枚数、時間の目安は次のとおりです。記録枚数/時間は撮影状況によって異なる場合があります。

• 画像サイズ・画質については、12ページまたは*別冊「はじめに」手順4*をご覧ください。

静止画の記録枚数（画質　上段：[ファイン]、下段[スタンダード]）（単位：枚）

容量 / サイズ	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB
7M	9	18	37	67	137	279	573
	18	36	73	132	268	548	1125
3：2	9	18	37	67	137	279	573
	18	36	73	132	268	548	1125
5M	12	25	51	92	188	384	789
	23	48	96	174	354	723	1482
3M	20	41	82	148	302	617	1266
	37	74	149	264	537	1097	2250
2M	33	66	133	238	484	988	2025
	61	123	246	446	907	1852	3798
VGA	196	394	790	1428	2904	5928	12154
	491	985	1975	3571	7261	14821	30385
16:9	33	66	133	238	484	988	2025
	61	123	246	446	907	1852	3798

• 撮影モードが[通常撮影]のときの枚数。
• 静止画の撮影残枚数が9999枚より多いときは、「>9999」と表示されます。
• 撮影した画像サイズをあとで変更できます（[リサイズ]、44ページ）。

動画の記録時間（単位：時：分：秒）

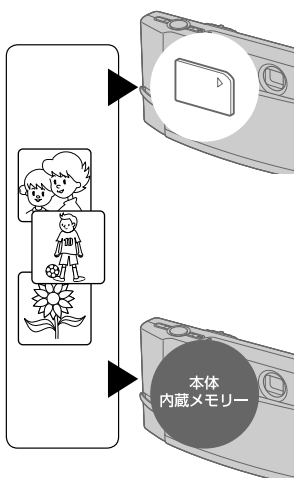
容量 / サイズ	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB
640（ファイン）	–	–	–	0:02:50	0:06:00	0:12:20	0:25:10
640（スタンダード）	0:01:20	0:02:50	0:05:50	0:10:40	0:21:40	0:44:20	1:31:00
160	0:22:40	0:45:30	1:31:30	2:51:20	5:47:00	11:44:20	24:18:20

• [640（ファイン）]は、"メモリースティック PRO デュオ"のみに記録できます。

• 当社の従来モデルで撮影した画像を再生すると、実際の画像サイズと異なって表示される場合があります。

“メモリースティック デュオ”がないときは（内蔵メモリー記録）

本機には、取りはずすことのできない内蔵メモリー（58MB）が装備されています。本機に“メモリースティック デュオ”が入っていないときでも、画像を内蔵メモリーに記録できます。

• 画像サイズが[640（ファイン）]の動画は内蔵メモリーに記録できません。

“メモリースティック デュオ”が挿入されているとき

[撮影画像]：“メモリースティック デュオ”に記録します。

[再生]：“メモリースティック デュオ”内の画像を再生します。

[メニュー/セットアップなどの機能]：
“メモリースティック デュオ”内のデータに対して行います。

“メモリースティック デュオ”が挿入されていないとき

[撮影画像]：内蔵メモリーに記録します。

[再生]：内蔵メモリーの画像を再生します。

[メニュー/セットアップなどの機能]：内蔵メモリー内のデータに対して行います。

内蔵メモリーに記録できる撮影枚数、時間の目安は次のとおりです。

静止画の記録枚数（画質　上段：[ファイン]、下段[スタンダード]）（単位：枚）

容量＼サイズ	7M	3:2	5M	3M	2M	VGA	16:9
58MB	16	16	23	37	60	357	60
	33	33	43	67	111	892	111

動画の記録時間（単位：時：分：秒）

容量＼サイズ	640（スタンダード）	160
58MB	0:02:30	0:42:40

内蔵メモリーに記録した画像データについて

必ず、以下のいずれかの方法でバックアップを取ることをおすすめします。

“メモリースティック デュオ”にバックアップをとるには

64MB以上の容量の“メモリースティック デュオ”を準備し、[コピー](56ページ)の操作を行う。

パソコンのハードディスクにバックアップをとるには

本機に“メモリースティック デュオ”を入れない状態で、64 ～ 68ページの操作を行う。

- “メモリースティック デュオ”に記録された画像データを、内蔵メモリーに移すことはできません。
- 本機とパソコンをUSB接続して、内蔵メモリーのデータをパソコンにコピーできますが、パソコン内のデータを内蔵メモリーにコピーすることはできません。

バッテリー使用時間と撮影/再生枚数

下の表は撮影モードを[通常撮影]にし、満充電したバッテリー（付属）で温度25℃の環境で使用した場合の目安です。また、撮影/再生枚数は"メモリースティック デュオ"を交換しながら撮影/再生したときの目安です。ご使用の状況によって記載より少ない数値になる場合があります。

• 使用回数や経年変化により、バッテリー容量は低下します（104ページ）。
• 次のような場合は使用時間と撮影/再生枚数は、表示よりも少なくなります。
  – 周囲が低温のとき
  – フラッシュ多用時
  – 電源の入/切を繰り返したとき
  – ズームを多用したとき
  – LCDバックライトを明るくしているとき
  – [AFモード]が[モニタリング]のとき
  – [手ぶれ補正]が[常時]のとき
  – バッテリーの容量が低下したとき

静止画撮影時

撮影枚数	使用時間
約420枚	約210分

• 撮影時の数値は以下の設定で撮影した数値。
  – (画質)：[ファイン]
  – [AFモード]：[シングル]
  – [手ぶれ補正]：[撮影時]
  – 30秒ごとに1回撮影
  – 1回ごとにズームをW側、T側に交互にいっぱいにする
  – 2回に一度、フラッシュを発光する
  – 10回に一度、電源を入/切する
• 測定方法はCIPA規格による。
  （CIPA：カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association）
• 画像サイズによって撮影枚数/使用時間が変化することはありません。

静止画再生時

再生枚数	使用時間
約8000枚	約400分

• 約3秒ごとにシングル画面で順番に再生した数値。

動画撮影時

使用時間
約200分

• 画像サイズが[160]で連続撮影した数値。

モードスイッチを使いこなそう

モードスイッチを、操作したい機能に合わせて設定します。

静止画撮影モード

オート：静止画オート撮影

自動設定で簡単に撮影できます。→*別冊「はじめに」手順5*

プログラム（P）：プログラムオート撮影

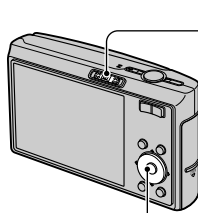
露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定します。また、メニューで多彩な機能を設定できます。（使用可能な機能について→31ページ）

：シーンセレクション

あらかじめ、撮影状況に合わせて用意された設定で撮影できます。
→*別冊「はじめに」手順5*

• 撮影モードを変えるには、30ページをご覧ください。

再生/編集
→*別冊「はじめに」手順6*

動画撮影
→*別冊「はじめに」手順5*

32ページ以降では、メニュー項目の設定が可能なモードを下記のように説明しています。

シーンセレクション

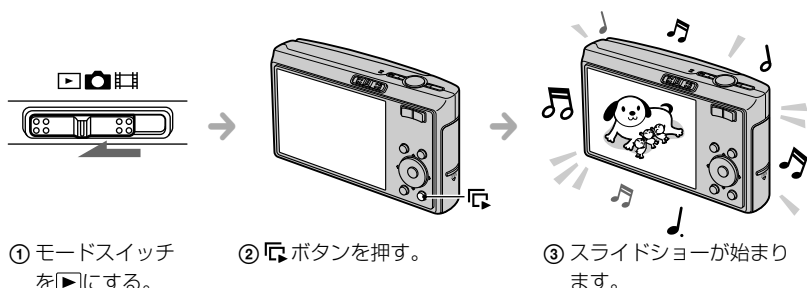
設定方法→*別冊「はじめに」手順5*

シーンセレクションでは、シーンに合わせて最適な撮影ができるよう、機能設定の組み合わせがあらかじめ決まっています。●はお好みの設定ができる機能です。

	マクロ/拡大鏡モード	フラッシュモード	AF測距枠	フォーカスプリセット	ホワイトバランス	フラッシュレベル	連写/ブラケット/マルチ連写
	●/ー		●	●	●	ー	●
	ー/ー		●	∞	●	ー	ー
	●/ー	SL	●	●	オート/WB	●	ー
	●/ー	●	●	●	●	●	●
	ー/ー	/	●	∞	●	●	●
	●/ー	/	●	●	●	●	●
	●/ー	/	●	●	●	●	●
	●/ー	/	●	●	●	●	●
	ー/ー		ー	∞		ー	ー

スライドショーの使いかた

ボタンを押すだけで、効果（エフェクト）や音楽とともに画像を連続再生して楽しむことができます（スライドショー）。

① モードスイッチを▶にする。
② ボタンを押す。
③ スライドショーが始まります。

BGMの音量を調節するには

▲/▼で音量を調節する。

スライドショーを一時停止するには

コントロールボタンの中央の●を押す。

再開したいときは［続行］を選び、中央の●を押す。

• 画像は停止したところから再生しますが、BGMは曲の始めから再生します。

画像を戻す/送るには

一時停止中に◀/▶を押す。

スライドショーを終了するには

ボタンを押すか、一時停止中に▼で［終了］を選び、●を押す。

• PictBridge接続中はスライドショーはできません。

設定を変更する

スライドショーの設定をお好みで変更できます。またスライドショーを始めることもできます。

① MENUボタンを押し、メニューを表示する。

② コントロールボタンの◀/▶で[ ]（スライドショー）を選び、中央の●を押す。

③ ▲/▼で設定する項目を選び、◀/▶で希望の設定を選ぶ。

④ ▼/▶で[スタート]を選び、中央の●を押す。

スライドショーが始まる。
スライドショーをすぐ始めないときは[キャンセル]を押す。

- 設定は次回変更するまで保持されます。

設定することができる項目は以下のとおりです。
お買い上げ時の設定は✓で示しています。

エフェクト

	シンプル	さまざまなシーンにフィットするシンプルなスライドショー。
	ノスタルジック	映画の１シーンのようなムードあるスライドショー。
✓	**スタイリッシュ**	ミドルテンポのスタイリッシュなスライドショー。
	アクティブ	アクティブなシーンに合ったハイテンポなスライドショー。
	ノーマル	画像を一定間隔で送るベーシックなスライドショー。

- [シンプル]、[ノスタルジック]、[スタイリッシュ]、[アクティブ]設定時は
  －静止画のみ表示されます。
  －マルチ連写した画像は１コマ目のみ表示されます。
- [ノーマル]設定時は、BGM [切]で固定です。ただし、動画の音声は流れます。

BGM

音楽（BGM）は、それぞれのエフェクトに合わせて作られています。

	Music1	エフェクトが[シンプル]のときの初期設定。
	Music2	エフェクトが[ノスタルジック]のときの初期設定。
✓	Music3	エフェクトが[スタイリッシュ]のときの初期設定。
	Music4	エフェクトが[アクティブ]のときの初期設定。
	切	エフェクトが[ノーマル]のときの設定。BGMはありません。

再生画像

✓	**フォルダ内**	選択中のフォルダ内の画像を順番に再生する。
	全て	"メモリースティック デュオ"内のすべての画像を順番に再生する。

繰り返し

✓	**入**	繰り返しスライドショーする。
	切	1回スライドショーする。

間隔設定

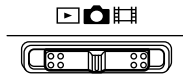
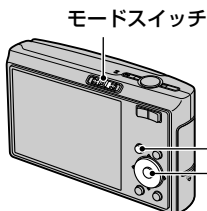
✓	**3秒**	画面切り換えの間隔。（エフェクトが[ノーマル]のときのみ）
	5秒	
	10秒	
	30秒	
	1分	

	スタート	スライドショーを実行する。
✓	**キャンセル**	スライドショー操作をやめる。

BGMファイルを追加/入れ換えをするには

お手持ちの音楽CDやMP3ファイルからお好みの曲（BGMファイル）を本機に転送し、スライドショーとともに再生できます。BGMファイルの転送は、パソコンにインストールした付属のソフトウェア「Music Transfer」を使用して、[ ]（セットアップ）の[BGMダウンロード]で行います。詳しくは、76、78ページをご覧ください。

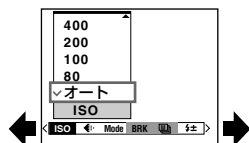
- 本機には4曲までBGMを記録できます。（出荷時には、4曲分（Music1 ～ 4）すべてのBGMが用意されていますが、お好みの曲と入れ換えることができます。）
- 本機で再生できる曲の長さは、1曲最長180秒までです。
- BGMファイルが破損するなどして再生ができない場合は、[BGMフォーマット]（57ページ）を行って、あらためてBGMファイルを本機に転送し直してください。

メニューの操作方法

1 **本機の電源を入れ、モードスイッチを合わせる。**

モードスイッチの位置やメニューの（カメラ）の設定によって、使用できる項目が異なります。

2 **MENUボタンを押し、メニューを表示する。**

3 **コントロールボタンの◀/▶を押し、設定するメニュー項目を選ぶ。**

- 設定するメニュー項目がかくれている場合は、◀/▶を押しつづけて表示する。
- モードスイッチが「▶」のときは、項目選択後●を押す。

4 **▲/▼を押して、設定を選ぶ。**

選ばれた設定が拡大表示されて決定される。

5 **MENUボタンを押し、メニュー表示を消す。**

撮影モードにするには

シャッターボタンを半押ししても、メニュー表示を消すことができます。

- 項目表示の端に▲/▼マークが付いているときは、画面に表示されていない項目があります。コントロールボタンで移動すると表示できます。
- 選ぶことができない項目は設定できません。

メニュー項目一覧

操作方法は30ページ

モードスイッチの位置によって、使用できるメニュー項目が異なります。本機の画面には、使用できる項目のみ表示されます。

（●：使用可能）

モードスイッチの位置：	（静止画）			（動画）	（再生）
	オート	プログラム	シーンセレクション		

撮影時に使うメニュー（32ページ）

	オート	プログラム	シーンセレクション	（動画）	（再生）
（カメラ）	●	●	●	–	–
COLOR（カラーモード）	–	●	–	●	–
（EV）	–	●	●	●	–
（フォーカス）	–	●	●	●	–
（測光モード）	–	●	●	●	–
WB（ホワイトバランス）	–	●	●	●	–
ISO	–	●	●	–	–
（画質）	–	●	●	–	–
Mode（撮影モード）	●	●	●	–	–
BRK（ブラケット設定）	–	●	●*	–	–
（インターバル）	–	●	●*	–	–
（フラッシュレベル）	–	●	●*	–	–
（コントラスト）	–	●	–	–	–
（シャープネス）	–	●	–	–	–
（セットアップ）	●	●	●	●	–

再生時に使うメニュー（41ページ）

	オート	プログラム	シーンセレクション	（動画）	（再生）
（フォルダ）	–	–	–	–	●
（プロテクト）	–	–	–	–	●
DPOF	–	–	–	–	●
（プリント）	–	–	–	–	●
（スライドショー）	–	–	–	–	●
（リサイズ）	–	–	–	–	●
（回転）	–	–	–	–	●
（分割）	–	–	–	–	●
（セットアップ）	–	–	–	–	●
トリミング**	–	–	–	–	●

* シーンセレクションのモードによっては使用できません。→26ページ

** 再生ズーム時のみ。

撮影時に使うメニュー

操作方法は30ページ

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

（カメラ）

静止画のカメラモードを選びます。

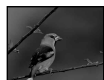
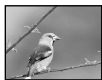
→*別冊「はじめに」手順5*

COLOR（カラーモード）

画像の鮮やかさを変えたり、特殊効果を加えて撮影できます。

	モノトーン（B&W）	画像を白黒にする。
	セピア（SEPIA）	古い写真のような色合いにする。
	ナチュラル（NATURAL）	落ちついた色合いにする。
	ビビッド（VIVID）	鮮やかで深い色合いにする。
✓	標準	

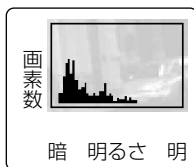
- 動画撮影時は、[モノトーン]、[セピア]のみになります。
- [マルチ連写]のときは、[標準]になります。

(EV)

−方向　　　　＋方向

露出を手動補正します。

	＋2.0EV	＋側：画像が明るくなる。
✓	0EV	本機が自動設定した露出。
	−2.0EV	−側：画像が暗くなる。

- 露出について→11ページ
- 1/3EV単位で露出値を調節できます。
- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュ撮影時は、補正が効かないことがあります。

ヒストグラムを使ってEV補正を行う

ヒストグラムは、明るさを示すグラフです。
(画面表示切り換え)ボタンを繰り返し押すと、画面内に表示されます。表示が右寄りなら明るめの画像、左寄りなら暗めの画像です。
モードスイッチを「」に合わせ、ヒストグラムで露出を確認しながらEV補正します。

- 下記の場合もヒストグラムが表示されますが、EV補正はできません。
  −(カメラ)が[オート]のとき
  −静止画シングル画面再生時
  −クイックレビュー時

操作方法は30ページ

（フォーカス）

ピント合わせの方法を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。

	∞（無限遠）	あらかじめ設定した距離にピントが合う。（フォーカスプリセット） • 網やガラス越しの撮影など、オートフォーカスが効きにくいときに便利です。
	7.0 m	
	3.0 m	
	1.0 m	
	0.5 m	
	スポットAF（）	非常に小さな被写体に自動ピント合わせする。 • AFロックと併用して好きな構図で撮影が可能です。測距枠からはずれないように手ぶれにご注意ください。 AF測距枠 AF測距枠表示
	中央重点AF（）	画面中央付近の被写体に自動ピント合わせする。 • AFロックと併用して好きな構図で撮影が可能です。 AF測距枠 AF測距枠表示
✓	**マルチAF（マルチポイントAF）（ 静止画のとき）（ 動画のとき）**	画面全体を基準に、自動ピント合わせする。 • 被写体が中央にないときなどに便利です。 AF測距枠 AF測距枠表示

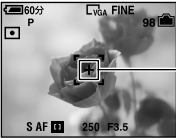
操作方法は30ページ

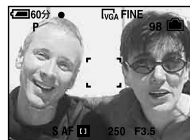
- AFとは、「Auto Focus」の略で、自動ピント合わせ機能のこと。
- 「フォーカスプリセット」の距離設定は多少の誤差を含みます。レンズを上や下に向けると誤差は大きくなります。
- 動画撮影時は、[マルチAF]をおすすめします。手ぶれに強いためです。
- デジタルズームやAFイルミネーターを使用するときは、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。この場合、▣、▣ または▣ は点滅し、AF測距枠は表示されません。
- シーンセレクションのモードによっては、選択できないものがあります（26ページ）。

ピントが合わないときは

被写体がフレーム（画面）端にある場合や、[中央重点AF]または[スポットAF]設定の場合、フレーム端の被写体にピントが合わない場合があります。この場合、以下の方法を使います。

① 被写体がAF測距枠内に入るように構図を変え、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる（AFロック）。

シャッターボタンを押し込む前なら、何回でもやり直せます。

② AE/AFロック表示が点滅→点灯に変わったら、半押しのまま構図を戻し、シャッターボタンを押し込んで撮影する。

メニューを使う

（測光モード）

本機が自動で露出を決めるとき、画面のどの部分で光を測るか（測光）を設定します。

	スポット（スポット測光）（ ）	被写体の一部分だけで測光する。 • 逆光にある被写体や、背景と被写体のコントラストが強いときに便利です。 スポット測光照準 被写体をここに合わせる
	中央重点（中央重点測光）（ ）	画面の中央部に重点をおいて測光し、中央部付近の明るさを基準に露出を決める。
✓	マルチ（マルチパターン測光）	画面を多分割して測光し、全体のバランスをとって自動調節する。

• 露出について→11ページ
• ［スポット測光］や［中央重点測光］の場合、測光する場所とフォーカス位置を合わせたいときは、［ ］（フォーカス）を［中央重点AF］にすることをおすすめします（34ページ）。

WB（ホワイトバランス）

画像の色がおかしいと感じたときなどに、撮影場所の光の状況に合わせて調整します。

	フラッシュ（WB）	フラッシュ光に合わせる。 • 動画のときは選べません。
	電球（ ）	パーティー会場など、照明条件が変化するときや、スタジオなどのビデオライトに合わせる。
	蛍光灯（ ）	蛍光灯の光に合わせる。
	曇天（ ）	曇り空に合わせる。
	太陽光（ ）	屋外や、夜景/ネオン/花火/日の出/日没前後などに合わせる。
✓	オート	ホワイトバランスを自動調節する。

• ホワイトバランスについて→12ページ
• ちらつきのある蛍光灯下では、［蛍光灯］（ ）を選んでもうまく合わないことがあります。
• ［フラッシュ］（WB）以外のときフラッシュ発光して撮影すると、［ホワイトバランス］は［オート］になります。
• シーンセレクションのモードによっては、選択できないものがあります（26ページ）。

ISO

光に対する感度をISOという単位で設定します。数値が大きいほど高感度になります。

	1000	暗い場所や高速で移動する被写体には大きい値を、高画質で撮るには小さい値を設定する。
	800	
	400	
	200	
	100	
	80	
✓	オート	

- ISO感度について→11ページ
- 高感度になるほどノイズ感が増します。
- シーンセレクションのときは、[ISO]は[オート]になります。
- 明るい環境下で撮影すると、自動的に階調表現が増し、白とびが軽減されます([ISO]が[80]または[100]以外のとき)。

(画質)

静止画の圧縮率を選びます。

✓	ファイン(FINE)	高画質(低圧縮)で記録する。
	スタンダード(STD)	標準画質(高圧縮)で記録する。

- 画質について→12ページ

Mode（撮影モード）

シャッターを押し込んだとき、連写するかしないかを設定します。

	マルチ連写（）	シャッターボタンを押すと、1枚の静止画の中に16コマの画像を連続記録する。 • スポーツのフォームチェックなどに便利です。 • ［インターバル］（39ページ）で、コマ間のインターバル（間隔）を設定できます。
	ブラケット（BRK）	3通りの異なった露出で、静止画を3枚撮影する。 • 被写体の明るさによってうまく撮影できないときに、ブラケット撮影で露出を変えながら撮影すれば、撮影したあと最適な露出の画像を選ぶことができます。
	連写（）	シャッターボタンを押し続けている間、最大連写枚数（次の表）まで連写する。 • 「記録中」という表示が消えると次の画像を撮影できます。
✓	**通常撮影**	連写しない。

［マルチ連写］について

- マルチ連写した画像は、下記の操作で連続再生できます。
  一時停止/再開：コントロールボタンの●を押す。
  1コマずつ再生：一時停止状態で◀/▶を押す。●を押すと連続再生に戻る。
- ［マルチ連写］では、以下の操作ができません。
  －スマートズーム
  －フラッシュ撮影
  －連写画像の分割/希望のコマのみの抽出や削除
  －（カメラ）が［オート］のとき［インターバル］を［1/30］以外に設定すること
- マルチ連写した画像をパソコンで再生すると、撮影された16コマが1枚の画像として同時に表示されます。マルチ連写機能のないカメラで再生した場合も同様です。
- マルチ連写の画像サイズは1Mとなります。
- シーンセレクションのモードによってはマルチ連写できない場合があります（26ページ）。

［ブラケット］について

- フラッシュは（発光禁止）になります。
- フォーカスとホワイトバランスは、最初の1枚目に設定された値に固定されます。
- EV補正をしているときは（33ページ）、補正した明るさを基準に露出が変わり撮影されます。
- 撮影の間隔は約1秒です。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたりするときは、設定した補正量で撮影できない場合があります。
- シーンセレクションのモードによっては、ブラケット撮影できない場合があります（26ページ）。

操作方法は30ページ

[連写]について

- フラッシュは (発光禁止)になります。
- セルフタイマーで連写すると、最大5枚の連続撮影となります。
- 撮影の間隔は約0.92秒です。
- バッテリーの残量が少ない、または内蔵メモリー / "メモリースティック デュオ"の容量がいっぱいになると、連写は停止します。
- シーンセレクションのモードによっては連写できない場合があります(26ページ)。

最大連写枚数 (枚)

画質 / サイズ	ファイン	スタンダード
7M	5	8
3:2	5	8
5M	6	11
3M	9	17
2M	15	27
VGA	85	100
16:9	15	27

BRK(ブラケット設定)

自動的に露出を変えて3枚の画像を連続して撮影できます。

	±1.0EV	露出値を上下に1.0EVずらして撮影する。
✓	±0.7EV	露出値を上下に0.7EVずらして撮影する。
	±0.3EV	露出値を上下に0.3EVずらして撮影する。

- シーンセレクションのモードによっては、[BRK(ブラケット設定)]が表示されません。

(インターバル)

[マルチ連写] (38ページ)のコマ間のインターバル(間隔)を設定します。

	1/7.5 (1/7.5")	• [Mode]で[マルチ連写]の設定をしてから、[インターバル]の設定をしてください。[マルチ連写]以外のときは設定できません(38ページ)。
	1/15 (1/15")	
✓	1/30 (1/30")	

- シーンセレクションのモードによっては、[(インターバル)]が表示されません。

メニューを使う

⚡±（フラッシュレベル）

フラッシュの発光量を調節します。

	＋(⚡+)	＋側：発光量を増やす。
✓	標準	
	−(⚡−)	−側：発光量を減らす。

- フラッシュモードの切り換え→*別冊「はじめに」手順5*
- シーンセレクションのモードによっては、フラッシュレベルの設定ができない場合があります（26ページ）。

◑（コントラスト）

撮影する画像の明暗の比（コントラスト）を変えます。

	＋(◑)	＋側：画像の明暗比を増やす。
✓	標準	
	−(◑)	−側：画像の明暗比を減らす。

（シャープネス）

撮影する画像の鮮鋭度（シャープネス）を変えます。

	＋()	＋側：画像のくっきり感を増やす。
✓	標準	
	−()	−側：落ち着いた画像にする。

（セットアップ）

48ページをご覧ください。

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

（フォルダ）

再生したい画像の入っているフォルダを選びます。（“メモリースティック デュオ”使用時のみ）

	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	フォルダ選択をやめる。

① コントロールボタンの◀/▶で再生したい画像が入っているフォルダを選ぶ。

② ▲を押して［実行］を選び、中央の●を押す。

フォルダについて

本機は撮影した画像を“メモリースティック デュオ”の特定のフォルダに記録します（54ページ）。このフォルダを変更したり、新規で作成したりできます。

- フォルダを作成するには→［記録フォルダ作成］（54ページ）
- 記録先のフォルダを変更するには→［記録フォルダ変更］（55ページ）
- “メモリースティック デュオ”に複数のフォルダがあるときは、フォルダ内の最初/最後の画像に下記のマークが表示されます。
  - ：前のフォルダに移動可能
  - ：後ろのフォルダに移動可能
  - ：前/後のフォルダに移動可能

（プロテクト）

画像を誤って消さないように保護（プロテクト）します。

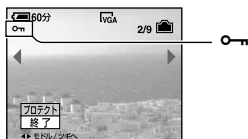
✓	**プロテクト（）**	下記の手順をご覧ください。
	終了	プロテクト操作を終了する。

操作方法は30ページ

シングル画面でプロテクトするには

① プロテクトしたい画像を表示する。

② MENUボタンを押し、メニューを表示する。

③ コントロールボタンの◀/▶で[⊶]（プロテクト）を選び、中央の●を押す。
画像がプロテクトされ、⊶マークが付く。

④ 他の画像もプロテクトしたいときは、◀/▶で画像を表示し、中央の●を押す。

インデックス画面でプロテクトするには

① ▦（インデックス）ボタンを押して、インデックス画面にする。

② MENUボタンを押し、メニューを表示する。

③ コントロールボタンの◀/▶で[⊶]（プロテクト）を選び、中央の●を押す。

④ ▲/▼で[選択]を選び、中央の●を押す。

⑤ プロテクトしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す。
画像に緑色の⊶マークが付く。

⑥ 他の画像もプロテクトしたいときは、手順⑤を繰り返す。

⑦ MENUボタンを押す。

⑧ ▶で[実行]を選び、中央の●を押す。
⊶マークが白色に変わり、プロテクトされる。

- フォルダ内の全画像をプロテクトするには、手順④で[フォルダ内全て]を選んで中央の●を押し、次に▶で[入]を選んで●を押す。

プロテクトを解除するには

シングル画面で解除するには

「シングル画面でプロテクトするには」の手順③または④で中央の●を押す。

インデックス画面で解除するには

① 「インデックス画面でプロテクトするには」の手順⑤で解除したい画像を選ぶ。

② 中央の●を押して、⊶マークをグレーにする。

③ 同じ操作を解除したいすべての画像について繰り返す。

④ MENUボタンを押して、▶で[実行]を選び、中央の●を押す。

フォルダ内全画像のプロテクトを解除するには

「インデックス画面でプロテクトするには」の手順④で[フォルダ内全て]を選んで中央の●を押し、次に▶で[切]を選んで●を押す。

- フォーマットするとプロテクトした画像も削除され元に戻せません。
- プロテクトには時間がかかる場合があります。

DPOF

プリントしたい画像にプリント予約マーク（）を付けます（84ページ）。

（プリント）

80ページをご覧ください。

（スライドショー）

27ページをご覧ください。

操作方法は30ページ

（リサイズ）

撮影した画像のサイズを変えて（リサイズ）、新しいファイルとして記録します。元の画像はそのまま残ります。

	7M	[画像サイズ]の選択の目安→*別冊「はじめに」手順4*
	5M	
	3M	
	2M	
	VGA	
✓	**キャンセル**	リサイズを中止する。

① サイズを変更したい画像を表示する。

② MENUボタンを押し、メニューを表示する。

③ コントロールボタンの◀/▶で[ ]（リサイズ）を選び、中央の●を押す。

④ ▲/▼で変更したいサイズを選び、中央の●を押す。
リサイズした画像が選択中の記録フォルダに一番新しいファイルとして記録される。

• [画像サイズ]→*別冊「はじめに」手順4*
• 動画/マルチ連写画像はリサイズできません。
• 小さいサイズから大きいサイズにリサイズすると、画像が劣化します。
• 縦横比3:2、16:9の画像サイズにはリサイズすることはできません。
• 縦横比3:2、16:9の画像はリサイズすると画像の上下に黒帯が入ります。

(回転)

静止画像を左右に回転します。

	↶↷	画像を回転する。下記の手順をご覧ください。
	実行	画像の回転を確定する。下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	[回転]を中止する。

① 回転させたい画像を表示する。

② MENUボタンを押し、メニューを表示する。

③ コントロールボタンの◀/▶で[ ]（回転）を選び、中央の●を押す。

④ ▲で[↶↷]を選び、◀/▶で画像を回転させる。

⑤ ▲/▼で[実行]を選び、中央の●を押す。

- プロテクトされている画像、動画、マルチ連写画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

(分割)

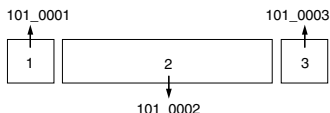
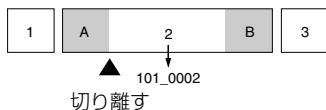
撮影した動画を分割したり、不要な部分を削除できます。内蔵メモリーまたは"メモリースティック デュオ"の容量が足りないときやEメールで動画を送るときに便利です。

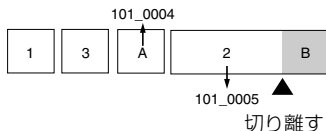
- 分割する前の動画は削除され、そのファイル番号は欠番となります。また、一度分割した動画を元に戻すことはできません。

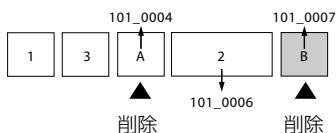
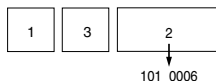
	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	分割を中止する。

操作方法は30ページ

例：101_0002の動画を分割した場合

下記のようなファイル構成のときにファイル名101_0002の動画ファイルを分割、削除する場合を例に説明する。

1 シーンAを切り離す。

101_0002が、分割されて101_0004と101_0005になる。

2 シーンBを切り離す。

101_0005が分割されて、101_0006と101_0007になる。

3 シーンAとBは不要なので削除する。

4 必要なシーン101_0006だけが残る。

操作方法

① 分割したい動画を表示する。

② MENUボタンを押し、メニューを表示する。

③ コントロールボタンの◀/▶で[✂]（分割）を選び、中央の●を押す。

④ ▲を押して[実行]を選び、中央の●を押す。

動画が再生される。

⑤ 分割したい位置で中央の●を押す。

- 分割する位置を微調節したいときは、[◀II/II▶]（コマ戻し/コマ送り）を選び、◀/▶で微調節する。
- 分割する場所を選び直すときは、[キャンセル]を選び、動画再生を再開する。

⑥ ▲/▼で[実行]を選び、中央の●を押す。

⑦ ▲で[実行]を選び、中央の●を押す。
動画が分割される。

- 分割後のファイル番号は、例のようになります。分割された動画は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。

- 下記の画像は分割できません。
  – 静止画
  – 分割できる充分な長さ（約2秒間）のない動画
  – プロテクトされている動画（41ページ）

(セットアップ)

48ページをご覧ください。

トリミング

再生ズーム（→*別冊「はじめに」手順6*）した画像を新しいファイルとして記録します。

	トリミング	下記の手順をご覧ください。
✓	**戻る**	トリミングを中止する。

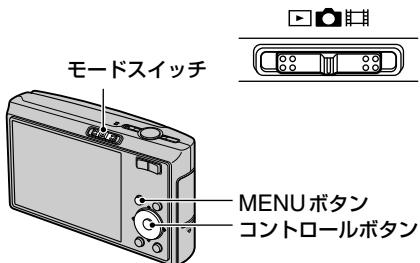
① 再生ズーム中にMENUボタンを押し、メニューを表示する。

② コントロールボタンの▶で[トリミング]を選び、中央の●を押す。

③ ▲/▼で画像サイズを選び、中央の●を押す。
画像が記録され、拡大前の画像表示に戻る。

- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録され、元の画像はそのまま残ります。
- トリミングした画像は画質が劣化する場合があります。
- 縦横比3:2、16:9の画像サイズにトリミングすることはできません。
- クイックレビューで表示した画像はトリミングできません。

セットアップ画面の操作方法

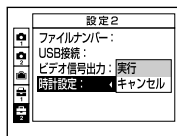
(セットアップ)画面を使うと、本機のお買い上げ時の設定を変更できます。

1 電源を入れる。

2 MENUボタンを押し、メニューを表示する。

3 コントロールボタンの▶を押し、(セットアップ)の位置に進み、もう一度▶を押す。

4 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ。

選ばれた設定の枠が黄色に変わる。

5 中央の●を押して設定(実行)する。

(セットアップ)画面を終了するには、MENUボタンを押す。

(セットアップ)画面からメニューに戻るには、コントロールボタンの◀を繰り返し押す。

• シャッターを半押しすると、(セットアップ)画面が終了して撮影モードに戻ります。

メニューが表示されていないときは

MENUボタンを長押ししても(セットアップ)画面になります。

設定変更を中止するには

[キャンセル]が選択項目にある場合は，それを選んでコントロールボタン中央の●を押す。ない場合は、設定し直す。

• 設定は、電源を切ってからも保持されます。

カメラ1

操作方法は48ページ

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

AFモード

自動ピント合わせ（オートフォーカス）の種類を選びます。

✓	**シングル（S AF）**	シャッターボタンを半押しすると自動ピント合わせする。動きのない被写体を撮影するときに便利。
	モニタリング（M AF）	シャッターボタンを半押しする前から自動ピント合わせする。ピント合わせの時間を短くできる。 • ［シングル］よりもバッテリーの消耗が早くなります。

デジタルズーム

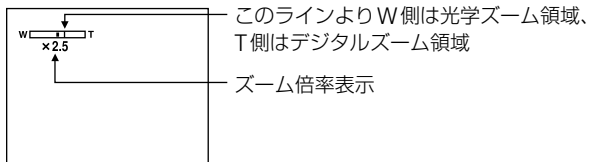
デジタルズームの設定をします。本機はレンズの倍率（3倍）まで光学ズームを行い、それを超えるとスマート/プレシジョンいずれかのデジタルズームを行います。

✓	**スマート（スマートズーム）（SQ）**	画像サイズに応じて、画像が劣化しない範囲内にデジタルズーム倍率を制限します。[7M]、[3:2]のときは使用できません。 • スマートズームの最大倍率は、下表をご覧ください。
	プレシジョン（プレシジョンデジタルズーム）（PQ）	画像サイズの設定に関わらず、最大6倍までデジタルズームしますが、画像は劣化します。
	切	デジタルズームを使わない。

スマートズームの画像サイズと最大倍率

画像サイズ	最大倍率
5M	約3.6倍
3M	約4.5倍
2M	約5.6倍
VGA	約14倍
16:9	約4.8倍

操作方法は48ページ

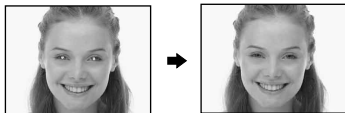
- ズームボタンを押すと、下記のようなズーム倍率が表示されます。

- スマートズーム/プレシジョンデジタルズームの最大倍率は、光学ズームの倍率を含みます。
- デジタルズーム時はAF測距枠は表示されません。▣、▣または▣が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- スマートズーム時に画面の画像が粗く見える場合がありますが、撮影される画像には影響ありません。

機能ガイド

本機を操作したときに、機能の説明が一時的に表示されます。

✓	入	機能ガイドを表示する。
	切	機能ガイドを表示しない。

赤目軽減

➡

フラッシュ撮影時、目が赤く写るのを抑制します。設定後、撮影します。

	入（👁）	赤目軽減する。 • フラッシュが2回以上予備発光します。
✓	切	赤目抑制しない。

- シャッターが切れるまで約1秒かかるので、カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。また、被写体が動かないようにしてください。
- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や、予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が表れにくいことがあります。

AFイルミネーター

AFイルミネーターとは、暗所でフォーカスを合わせるための補助光です。シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間、自動的に赤い補助光が出て、フォーカスを合わせやすくします。このとき画面に ON が表示されます。

✓	**オート**	AFイルミネーターを使う。
	切	使わない。

- AFイルミネーターを発光しても、充分な光が被写体に届かない場合(推奨距離:約2.7 m(ズーム:W)まで/約2.5 m(ズーム:T)まで)やコントラストが弱い被写体を撮影する場合、フォーカスは合いません。
- AFイルミネーターの光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- フォーカスプリセット(34ページ)のとき、AFイルミネーターは使えません。
- AF測距枠は表示されません。、 または が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- シーンセレクションが(夜景モード)、(風景モード)、(高速シャッターモード)、(打ち上げ花火モード)に設定されているときは、AFイルミネーターは発光しません。
- AFイルミネーターは明るい光です。安全には問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。

オートレビュー

静止画撮影直後に、記録した画像を約2秒間画面に表示します。

✓	**入**	オートレビューを使う。
	切	使わない。

- シャッターボタンを半押しすると記録画像の表示が消え、すぐに次の撮影ができます。

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

手ぶれ補正

手ぶれ補正の種類を選びます。

✓	**撮影時**	シャッターボタンを半押しすると手ぶれ補正が働く。
	常時	常に手ぶれ補正が働く。遠くを拡大して撮影するときでも構図を安定させることができます。 • [撮影時]よりもバッテリーの消費が早くなります。

- 動画では、[撮影時]を選んでも、[常時]の状態で手ぶれ補正します。
- (手ぶれ補正)ボタンで、手ぶれ補正を「オフ」にすることもできます((カメラ)が[オート]以外のとき)。→*別冊「はじめに」手順5*
- 下記の場合は、手ぶれが補正しきれないことがあります。
  – 手ぶれが大きすぎる
  – 夜景撮影時など、シャッタースピードを遅くして撮影するとき

内蔵メモリーツール

操作方法は48ページ

“メモリースティック デュオ”が本機に入っている場合は表示されません。
お買い上げ時の設定は ✔ で示しています。

フォーマット

内蔵メモリーをフォーマット(初期化)します。

- フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✔	**キャンセル**	フォーマットを中止する。

① コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す。
「内蔵メモリーのデータがすべて消去されます　よろしいですか？」というメッセージが表示される。

② ▲で[実行]を選び、中央の●を押す。

フォーマットが実行される。

“メモリースティック デュオ”が本機に入っている場合のみ表示されます。
お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

フォーマット

“メモリースティック デュオ”をフォーマット(初期化)します。市販の“メモリースティック デュオ”はフォーマット済みのため、フォーマットの必要はありません。

- フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	フォーマットを中止する。

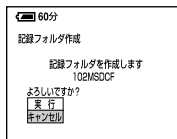
① コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す。
「メモリースティックのデータがすべて消去されます　よろしいですか？」というメッセージが表示される。

② ▲で[実行]を選び、中央の●を押す。
フォーマットが実行される。

記録フォルダ作成

“メモリースティック デュオ”の中に新しいフォルダを作成します。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	記録フォルダ作成を中止する。

① コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す。
記録フォルダ作成画面が表示される。

② ▲で[実行]を選び、中央の●を押す。
既存番号+1のフォルダが作成される。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダに記録される。

- フォルダについては、41ページで説明しています。
- フォルダを新規作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダが記録フォルダとして設定されます。
- フォルダは最高で「999MSDCF」まで作成できます。

- 画像は、違うフォルダを選ぶか、更に新しいフォルダを作成するまでそのフォルダに記録されます。
- 一度作成したフォルダを本機では削除できないため、パソコンなどで削除してください。
- １つのフォルダに記録できる画像は最大4000枚のため、フォルダ容量を超えると、自動的に新しいフォルダが作成されます。
- 「画像ファイルの保存先とファイル名」（69ページ）もご覧ください。

記録フォルダ変更

画像を記録するフォルダを変更します。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	キャンセル	記録フォルダ変更を中止する。

① コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す。

記録フォルダ選択画面が表示される。

② ◀/▶で記録フォルダを選び、▲で［実行］を選び、中央の●を押す。

- 「100MSDCF」フォルダは記録フォルダとして選べません。
- 記録した画像を別のフォルダには移動できません。

操作方法は48ページ

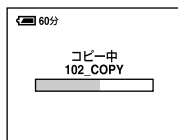
コピー

内蔵メモリーに記録した画像を、"メモリースティック デュオ"に一括コピーします。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	キャンセル	コピーを中止する。

① 64MB以上の容量のある"メモリースティック デュオ"を本体に入れる。

② コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す。
「内蔵メモリーのデータがすべてコピーされます　よろしいですか？」というメッセージが表示される。

③ ▲で[実行]を選び、中央の●を押す。
コピーが実行される。

- 充分に充電したバッテリーまたはACアダプター（別売）をご使用ください。残量の少ないバッテリーを使用して画像ファイルをコピーすると、バッテリー切れのため、データを転送できなかったり、データを破損するおそれがあります。
- 画像ごとのコピーはできません。
- データをコピーしても、内蔵メモリー内のデータは削除されません。内蔵メモリーの内容を消去するには、コピー後に"メモリースティック デュオ"を本体から取りはずし、内蔵メモリーツールの[フォーマット]を行ってください（53ページ）。
- "メモリースティック デュオ"内のフォルダを選ぶことはできません。
- データのコピーを行っても、（プリント予約）マークの設定はコピーされません。

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

BGMダウンロード

スライドショーで使うBGMをダウンロードします。29、76、78ページをご覧ください。

BGMフォーマット

スライドショーでBGMが再生できない場合は、BGMファイルが壊れている可能性があります。その場合は、BGMフォーマットを行ってください。
BGMフォーマットを行うと、すべてのBGMファイルが消去されるので、付属のアプリケーション「Music Transfer」を使用して[BGMダウンロード]を行ってください。

「すべてのデータが消去されます　よろしいですか？」というメッセージが表示される。

	実行	フォーマットする。BGM以外のデータはそのまま保存されます。
✓	**キャンセル**	フォーマットを中止する。

LCDバックライト

LCD（画面）バックライトの明るさを設定します（バッテリー使用時のみ）。

	明	明るくする。
✓	**標準**	

- ▢（画面表示切り換え）ボタンを長押ししても変更できます。
- [明]に設定すると、バッテリーの消耗は早くなります。

操作音

本機を操作したときに鳴るブザーを設定します。

	シャッター	シャッターボタンを押したときのみ、シャッター音が鳴る。
✓	**入**	コントロールボタン/シャッターボタンを押したときなどに、ブザー/シャッター音が鳴る。
	切	音は鳴らない。

☞操作方法は48ページ

設定リセット

お買い上げ時の設定に戻します。

	実行	設定をリセットする。
✓	**キャンセル**	設定リセットを中止する。

① コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す。
「すべての設定内容をリセットします　よろしいですか？」というメッセージが表示される。

② ▲で[実行]を選び、中央の●を押す。
設定リセットが実行される。

• 設定リセット中は電源が切れないようにご注意ください。

設定2

操作方法は48ページ

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

ファイルナンバー

撮影画像のファイルナンバーの付けかたを設定します。

✓	**連番**	記録フォルダを変更したり、"メモリースティック デュオ"を取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。（取り換えた"メモリースティック デュオ"内に最新ファイルより大きな番号のファイルがある場合は、既存の最大番号+1のファイル番号を付ける。）
	リセット	フォルダごとにファイル番号を0001から付ける。（記録フォルダ内にファイルがある場合は、既存最大番号＋1のファイル番号を付ける。）

USB接続

本機とパソコンまたはPictBridge対応プリンターをマルチ端子専用ケーブルで接続するときのモードを設定します。

	PictBridge	本機とPictBridge対応プリンターを接続する（80ページ）。
	PTP	PTP（Picture Transfer Protocol）接続すると、コピーウィザードが自動的に起動し、本機に設定されている記録フォルダ内の画像をパソコンにコピーする。（Windows XP、Mac OS Xに対応）
	Mass Storage	本機とパソコン、その他USB機器をMass Storage接続する（65ページ）。
✓	**オート**	本機がパソコン、またはPictBridge対応プリンターを自動認識して接続する（65、80ページ）。 • [オート]で本機とPictBridge対応プリンターを接続できない場合は、[PictBridge]に設定し直してください。 • [オート]で本機とパソコン、その他USB機器を接続できない場合は、[Mass Storage]に設定し直してください。

☞ 操作方法は48ページ

ビデオ信号出力

接続するビデオ機器のカラーテレビ方式に合わせて設定します。

✓	NTSC	ビデオ信号出力をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。
	PAL	ビデオ信号出力をPALモードに設定する（欧州など）。

時計設定

時刻を再設定します。

	実行	コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す。その後、時計合わせの手順（→*別冊「はじめに」手順2*）を行う。
✓	**キャンセル**	時計設定を中止する。

Windowsパソコンでできること

Macintoshについては、「Macintoshをお使いのときは」をご覧ください（77ページ）。

まずはソフトウェア（付属）をインストールしよう！（63ページ）

パソコンに画像を取り込もう！（64ページ）

画像をパソコンで見る

「Cyber-shot Viewer」、「Music Transfer」で活躍の場を広げよう！（72、76ページ）

- パソコン内の画像を見る
- 撮影日ごとにまとめられた写真を見る
- 画像を編集する
- スライドショーのBGMを追加/入れ換える

画像をプリントする

パソコンの推奨環境

本機とつなぐパソコンは、下記の推奨環境が必要です。

画像を取り込むときの推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Microsoft Windows 2000 Professional/Millennium Edition/XP Home Edition/XP Professional

- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。

USB端子: 標準装備

「Cyber-shot Viewer」、「Music Transfer」使用時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Microsoft Windows 2000 Professional/Millennium Edition/XP Home Edition/XP Professional

サウンドカード: 16 bitステレオサウンドカードおよびスピーカー

CPU/メモリ: Pentium III 500 MHz以上/RAM 128 MB以上(Pentium III 800 MHz以上/RAM 256 MB以上を推奨)

必要なソフトウェア: DirectX 9.0c以降

ハードディスク: インストール時に必要な容量: 約200 MB

ディスプレイ: 800×600ドット以上、High Color(16 bitカラー、65000色)以上

- 本ソフトウェアはDirectXテクノロジーに対応しているため、DirectXのインストールが必要になることがあります。

パソコン接続についてのご注意

- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- Hi-Speed USB(USB2.0準拠)のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送(high-speed転送)が行えます。
- パソコンと接続するときの本機のUSBモードには[オート](お買い上げ時の設定)、[Mass Storage]、[PTP]の3種類があります。ここでは[オート]および[Mass Storage]での使いかたを説明します。[PTP]については、59ページをご覧ください。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページでは、パソコンとの接続方法やソフトウェアなどの最新サポート情報をご覧いただけます。

http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

ソフトウェア（付属）をインストールする

下記の手順で、ソフトウェア（付属）をインストールします。

- Windows 2000/Meをお使いの場合は、インストールの前に本機をパソコンに接続しないでください。
- Windows 2000/XPをお使いの場合は、コンピュータの管理者権限でログオンしてください。
- ソフトウェア（付属）のインストールを行うと、USBドライバーのインストールも同時に行えます。

1 パソコンの電源を入れた状態で、CD-ROM（付属）をCD-ROMドライブに入れる。

インストール画面が表示される。

- インストール画面が表示されないときは、（マイコンピュータ）→（CYBERSHOTSOFT）の順にダブルクリックする。

2 ［インストール］をクリックする。

「言語の選択」画面が表示される。

3 ［日本語］を選び、［次へ］をクリックする。

使用許諾画面が表示される。
内容をよく読み、「使用許諾契約の全条項に同意します」にチェックを入れ、［次へ］をクリックする。

4 以降、画面の指示に従ってインストールを進める。

- パソコンの再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。
- 使用環境によって、DirectXが引き続きインストールされることがあります。

5 インストール後、パソコンからCD-ROMを取り出す。

画像をパソコンに取り込む

ここでは、Windowsパソコンでの手順を説明します。
本機の画像をパソコンに取り込むには、下記の方法があります。

メモリースティックスロット付きパソコンの場合：
本機から"メモリースティック デュオ"を取りはずしてメモリースティック デュオ アダプターに入れ、パソコンに挿入して、画像データをコピーする。
"メモリースティック PRO デュオ"が認識されない場合は、95ページをご覧ください。

メモリースティックスロットなしのパソコンの場合：
64 ～ 68ページ記載の操作1 ～ 4で、画像をパソコンにコピーできます。

- Windows 2000/Meをお使いの場合は、次の手順に進む前に、ソフトウェア（付属）をインストールしてください。Windows XPの場合は必要ありません。
- 画像の例は"メモリースティック デュオ"の画像をパソコンにコピーするときのものです。

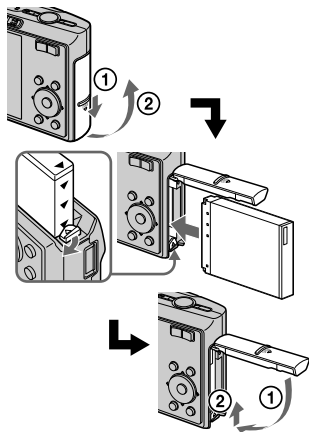
パソコンとの接続方法や最新サポート情報は、デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

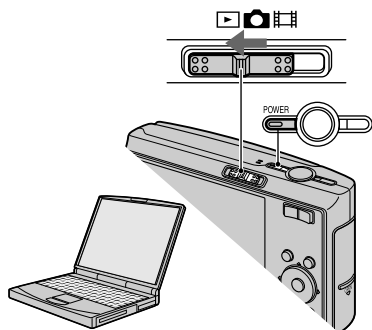
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

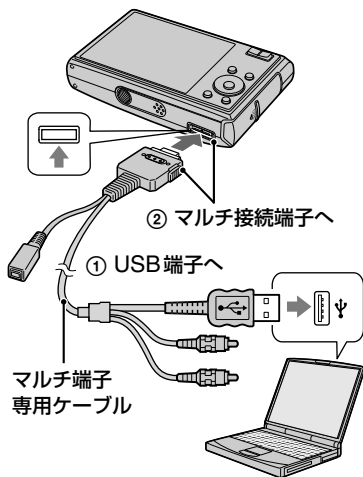
操作1：本機とパソコンを準備する

1 画像を記録した"メモリースティック デュオ"を本機に入れる。

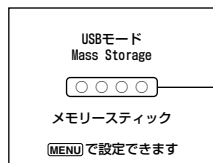
- 内蔵メモリーの画像をコピーする場合は、手順1は不要です。

2 充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター（別売）で本機とコンセントをつなぐ。

- 残量が少ないバッテリーを使用して画像をコピーすると、バッテリー切れのため、データを転送できなかったり、データを破損するおそれがあります。

3 モードスイッチを「▶」にして、本機とパソコンの電源を入れる。

操作2：本機とパソコンをつなぐ

1 本機とパソコンを接続する。

2 マルチ端子専用ケーブルのスイッチを「CAMERA」にする。

- Windows XPの場合は、パソコンの画面に自動再生ウィザードが表示されます。

本機の画面に「USBモード Mass Storage」と表示される。

初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

* 通信中はアクセス表示が赤色になります。白色になるまで、パソコンの操作をしないでください。

- 画面に「USBモード Mass Storage」と表示されないときは、本機の[USB接続]を[Mass Storage]に設定してください（59ページ）。

操作3-A：画像をパソコンに取り込む

XP

- Windows 2000/Me使用時：
  →「操作3-B：画像をパソコンに取り込む」（67ページ）
- Windows XP使用時で自動再生ウィザードが起動しないとき：→「操作3-B：画像をパソコンに取り込む」（67ページ）

ここでは、パソコンの「マイドキュメント」に画像を取り込む例を説明します。

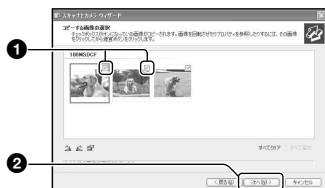
1 「操作2」で接続完了後、パソコンで自動再生ウィザードが起動するので、[コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする。Microsoftスキャナとカメラウィザード使用]→[OK]の順にクリック。

「スキャナとカメラウィザードの開始」画面が表示される。

2 [次へ]をクリック。

本機の"メモリースティック デュオ"に記録されている画像が表示される。

- "メモリースティック デュオ"が入っていないときは、内蔵メモリーの画像が表示されます。

3 パソコンにコピーしない画像の ☑ をクリックして ☐ にし、[次へ]をクリック。

「画像の名前とコピー先」画面が表示される。

4 画像の名前とコピー先を指定し、[次へ]をクリック。

画像のコピーを開始します。画像のコピーが終了すると、「そのほかのオプション」画面が表示される。

- ここでは、画像のコピー先を「マイドキュメント」にしています。

5 **[作業を終了する]の ○ をクリックして ⊙ にし、[次へ]をクリック。**

「スキャナとカメラウィザードの完了」画面が表示される。

6 **[完了]をクリック。**

ウィザード画面が閉じる。

- 続けて画像をコピーしたい場合は、69ページの手順で、マルチ端子専用ケーブルを一度抜いて、「操作2：本機とパソコンをつなぐ」（65ページ）から行う。

操作3-B：画像をパソコンに取り込む

2000 **Me**

- Windows XP使用時：→「操作3-A：画像をパソコンに取り込む」（66ページ）

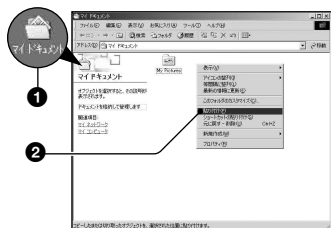
ここでは、パソコンの「マイドキュメント」に画像を取り込む例を説明します。

1 **[マイコンピュータ]→[リムーバブルディスク]→[DCIM]の順にダブルクリック。**

- リムーバブルディスクが表示されないときは、93ページをご覧ください。

2 **取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリック。次に、取り込みたい画像ファイルを右クリックしてメニューを表示し、[コピー]をクリック。**

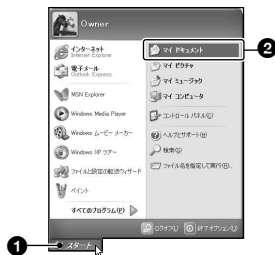
- 画像ファイルの保存先については、69ページをご覧ください。

3 [マイドキュメント]フォルダをダブルクリックして開く。次に、右クリックでメニューを表示し、[貼り付け]を選ぶ。

「マイドキュメント」フォルダに画像がコピーされる。

- コピー先に同じファイル名の画像があるときは、元の画像を上書きしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。
  上書きすると、元のファイルデータは消えます。上書きしない場合は、ファイル名を希望の名称に変更してからコピーします。ただし、ファイル名を変更する（71ページ）と本機で再生できなくなる場合があります。

操作4：パソコンで画像を見る

「マイドキュメント」に保存された画像を見ます。

1 [スタート]→[マイドキュメント]をクリック。

「マイドキュメント」フォルダの内容が表示される。

- Windows XP以外の場合は、デスクトップ画面上の[マイドキュメント]をダブルクリックする。

2 見たい画像ファイルをダブルクリック。

画像が表示される。

パソコンとの接続を切断するには

以下の操作を行いたいときは、ここで説明する手順をあらかじめ行ってください。

- マルチ端子専用ケーブルを抜く
- “メモリースティック デュオ”を取り出す
- 内蔵メモリーからのコピーを終了して、“メモリースティック デュオ”を本機に入れる
- 本機の電源を切る

■Windows 2000/Me/XPの場合

① タスクトレイの をダブルクリック。

ここをダブルクリック

② (Sony DSC)→[停止]をクリック。

③ 取りはずすドライブを確認して、[OK]をクリック。

④ [OK]をクリック。

パソコンの接続が切断されました。

- Windows XPをお使いの方は、手順④は不要です。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、“メモリースティック デュオ”内のフォルダにまとめられています。

Windows XPの例

A フォルダ作成機能のないカメラで撮影した画像ファイルのフォルダ。

B 本機で撮影した画像ファイルのフォルダ。新しくフォルダ作成していない場合は、以下のとおりです。

— “メモリースティック デュオ”：「101MSDCF」のみ

— 内蔵メモリー：「101_SONY」のみ

パソコンで楽しむ

- 「100MSDCF」フォルダには本機で画像を記録できません。再生のみ可能です。
- 「MISC」フォルダは、本機で記録/再生できません。
- 画像ファイル名は、下記のようになります。□□□□は0001 ～ 9999の半角数字、動画ファイルとそのインデックス画像ファイル名の数字部分は同じです。
  – 静止画ファイル：DSC0□□□□.JPG
  – 動画ファイル：MOV0□□□□.MPG
  – 動画撮影時に記録されるインデックス画像ファイル：MOV0□□□□.THM
- フォルダについては、41、54ページをご覧ください。

パソコン内の画像を本機で見る(“メモリースティック デュオ”使用)

ここでは、Windowsパソコンでの手順を説明します。

パソコンにコピー後、“メモリースティック デュオ”から消去した画像をもう一度本機で見るには、パソコンから“メモリースティック デュオ”に画像をコピーしてから本機で再生します。

- 本機設定のファイル名を変更していない場合、手順1は必要ありません。
- 画像サイズによっては再生できない画像があります。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生を保証しません。
- フォルダがない場合は、まず本機でフォルダを作成してから(54ページ)画像ファイルのコピーを行ってください。

1 画像ファイルを右クリックし、[名前の変更]をクリックする。ファイル名を「DSC0□□□□」に変更する。

□□□□には、0001から9999までの半角数字を入れる。

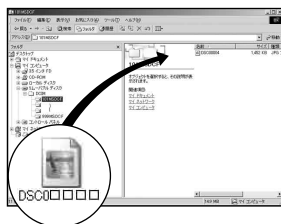
- 上書きの警告が出た場合は、別の数字を入れ直してください。
- パソコンによっては、静止画の拡張子「JPG」、動画の拡張子「MPG」が表示されます。拡張子は変更しないでください。

2 下記の手順で、ファイルを“メモリースティック デュオ”内のフォルダにコピーする。

① 画像を右クリック→[コピー]をクリック。

② [マイコンピュータ]内の[リムーバブルディスク]または[SonyMemoryStick]をダブルクリック。

③ [DCIM]フォルダ内の[□□□MSDCF]フォルダを右クリックし、[貼り付け]をクリック。

- □□□には、100 ～ 999までの半角数字が入ります。

「Cyber-shot Viewer」（付属）で楽しむ

本機で撮影した静止画や動画をより いっそうご活用いただくために、「Cyber-shot Viewer」が収録されています。ここでは、「Cyber-shot Viewer」の概要と、基本的な利用方法を紹介します。

「Cyber-shot Viewer」のご紹介

「Cyber-shot Viewer」をご利用されると、次のことができます。

- 本機で撮影した画像をパソコンに取り込み、表示できます。
- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して、閲覧できます。
- 静止画の補正、印刷、メール送信、撮影日時の変更などの活用ができます。
- 詳しいご利用方法については、ヘルプをご覧ください。

ヘルプを起動するには、[スタート]→[プログラム]（Windows XPでは[すべてのプログラム]）→[Sony Picture Utility]→[ヘルプ]→[Cyber-shot Viewer]の順にクリックします。

「Cyber-shot Viewer」を起動/終了するには

起動する

デスクトップ上の [Cyber-shot Viewer]をダブルクリックする。
スタートメニューから起動するときは、[スタート]→[プログラム]（Windows XPでは[すべてのプログラム]）→[Sony Picture Utility]→[Cyber-shot Viewer]の順にクリックする。

終了する

画面右上の[ ]ボタンをクリックする。

基本的な操作方法

本機の画像をパソコンに取り込み、表示する方法を説明します。

画像の取り込み

1 メディア監視ツール*が起動していることを確認する。

タスクバーに （メディア監視ツール）アイコンが存在することを確認する。

* 「メディア監視ツール」は、画像が保存されている"メモリースティック"やカメラがパソコンに接続されると、自動的に検出して画像の取り込みを行うプログラムです。

- アイコンが存在しない場合は、[スタート]→[プログラム]（Windows XPでは[すべてのプログラム]）→[Sony Picture Utility]→[Cyber-shot Viewer]→[ツール]→[メディア監視ツール]の順にクリックします。

2 パソコンと本機をマルチ端子専用ケーブルで接続する。

本機が自動認識され、[画像の取り込み]画面が表示されます。

- メモリースティックスロットをご使用になる場合は、64ページをご覧ください。
- Widows XPの場合は、自動再生ウィザードが起動したら終了してください。

3 画像を取り込む。

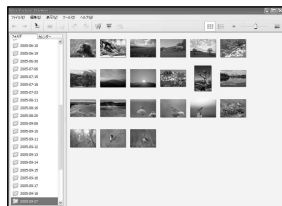
[取り込み開始] ボタンを押すと、画像の取り込みが開始されます。

初期設定では、「マイ ピクチャ」に取り込み日を名前にしたフォルダが作成され、その中に画像が取り込まれます。

- 取り込みフォルダを変更したい場合は、75ページをご覧ください。

画像の閲覧

1 取り込んだ画像を確認する。

取り込みが完了すると、「Cyber-shot Viewer」が起動して、取り込んだ画像のサムネイルが表示されます。

- 初期設定では、「閲覧フォルダ」として「マイ ピクチャ」フォルダが設定されています。
- サムネイル画像をダブルクリックすると1枚で表示されます。

2 「閲覧フォルダ」の画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して見る。

① [カレンダー]タブをクリックする。

画像が撮影された年の一覧が表示されます。

② 年の項目をクリックする。

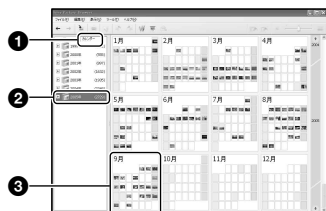
その年に撮影された画像が、年単位で撮影日ごとにカレンダー表示されます。

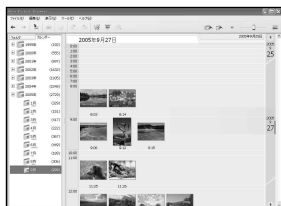
③ 月表示するときは、見たい月の部分をクリックする。

その月に撮影されたサムネイル画像が表示されます。

④ 撮影時間ごとの画像を表示したいときは、見たい日にちの部分をクリックする。

その日に撮影されたサムネイル画像が、撮影時間ごとに表示されます。

[年表示画面]

[月表示画面]

[時間表示画面]

- 画面左の年、または月の項目をクリックすると、その年、またはその月の撮影画像の一覧画面が表示されます。

3 個々の画像を表示するには

時間表示画面で、サムネイル画像をダブルクリックすると、別ウィンドウが起動し、その画像が一枚表示されます。

- ツールバーの[ ]ボタンから、表示されている画像を編集できます。

画像を全画面表示にするには

[ ]ボタンを押すと、閲覧している画像が全画面のスライドショーで再生されます。

- スライドショーの再生/一時停止を行うには、画面左下の[ ]ボタンを押します。
- スライドショーを終了するには、画面左下の[×]ボタンを押します。

その他の機能

パソコンに保存してある画像を閲覧できるようにするには

保存してある画像があるフォルダを、「閲覧フォルダ」として登録します。
[ファイル]メニューの[閲覧フォルダの登録…]を選ぶと、「閲覧フォルダ」を登録する設定画面が表示されます。

[フォルダ選択(D)…]ボタンを押して、取り込みたい画像があるフォルダを指定し、「閲覧フォルダ」として登録します。

- 取り込み元のフォルダ内にサブフォルダがある場合、サブフォルダの画像も登録されます。

「取り込み先フォルダ」を変更するには

「取り込み先フォルダ」は、取り込み設定画面から変更できます。
[ファイル]メニューの[画像の取り込み設定…]を選ぶと、取り込み設定の画面が表示されます。

画像の取り込み先を選択します。

- 「取り込み先フォルダ」は、「閲覧フォルダ」として登録されているフォルダの中から指定できます。

画像の登録情報を最新にするには

[ツール]メニューから[データベースを最新の情報に更新]を選択すると更新されます。

- データベースの更新には、時間がかかる場合があります。
- 「閲覧フォルダ」にある、画像やフォルダの名称を変えると、「Cyber-shot Viewer」で表示できなくなります。その場合は、データベースの更新を行ってください。

「Cyber-shot Viewer」をアンインストールするには

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順でクリックし、[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリック。(Windows XPでは[スタート]→[コントロールパネル]の順にクリックし、[プログラムの追加と削除]をダブルクリック。)

②[Sony Picture Utility]を選択し、[変更と削除](Windows XPでは[削除])をクリックしてアンインストールする。

「Music Transfer」（付属）を使う

CD-ROM（付属）に収録されている「Music Transfer」を使って、出荷時から本機に用意されているBGMファイルをお好みの曲と入れ換えることができます。また、BGMファイルの削除や追加を行うこともできます。

「Music Transfer」を使ってBGMの追加/入れ換えをする

「Music Transfer」で取り込むことができる曲の種類は下記のとおりです。

- パソコンのハードディスクに保存されたMP3ファイル
- 音楽CDの曲
- 工場出荷時に本機に保存されている曲

1 MENUボタンを押し、メニューを表示する。

2 コントロールボタンの▶で[■]（セットアップ）を選ぶ。

3 コントロールボタンの▲/▼で[■]（設定1）を選び、▼/▶で[BGMダウンロード]を選ぶ。

4 ▶/▲で[実行]を選び、中央の●を押す。

「PCと接続してください」というメッセージが表示される。

5 本機とパソコンをUSB接続する。

6 「Music Transfer」を起動する。

7 画面の操作手順に従って、BGMファイルの追加/入れ換えを行う。

- 出荷時に保存されていた曲を再び本機に戻すときは、
  1. [BGMフォーマット]を行う（57ページ）。
  2. 「Music Transfer」で「すべて初期の曲に戻す」を実行する。
     本機の曲がすべてお買い上げ時に設定されていた曲に戻り、[スライドショー]の[BGM]は[切]になる。
  3. [スライドショー]の[エフェクト]に適したBGMを選ぶ（28ページ）。
     [設定リセット]（58ページ）をしてもお買い上げ時のBGM設定に戻すことができますが、同時に他の設定もお買い上げ時の設定に戻ります。
- 「Music Transfer」の詳しい使いかたについては、「Music Transfer」のヘルプをご覧ください。

Macintoshをお使いのときは

Macintoshに画像を取り込むことができます。

- 「Cyber-shot Viewer」は、Macintoshには対応していません。

パソコンの推奨環境

本機とつなぐパソコンは、下記の推奨環境が必要です。

画像を取り込む時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X(v10.0以降)

USB端子: 標準装備

「Music Transfer」使用時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Mac OS X (v10.3以降)

CPU: iMac、eMac、iBook、PowerBook、Power Mac G3/G4/G5シリーズ、Mac mini

メモリ: 64 MB以上(128 MB以上を推奨)

ハードディスク: インストール時に必要な容量: 約250 MB

パソコン接続についてのご注意

- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- Hi-Speed USB(USB2.0準拠)のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送(high-speed転送)が行えます。
- パソコンと接続するときの本機のUSBモードには[オート](お買い上げ時の設定)、[Mass Storage]、[PTP]の3種類があります。ここでは[オート]および[Mass Storage]での使いかたを説明します。[PTP]については、59ページをご覧ください。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

画像を取り込んで見る

1 本機とMacintoshを準備する。

「操作1:本機とパソコンを準備する」(64ページ)と同じ準備をします。

2 マルチ端子専用ケーブルで接続する。

「操作2:本機とパソコンをつなぐ」(65ページ)と同じ操作で接続します。

3 画像ファイルをMacintoshにコピーする。

① [デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン] → [DCIM] → [取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリック。

② 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップ。
ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

- 画像ファイルの保存先とファイル名については、69ページをご覧ください。

4 Macintoshで画像を見る

[ハードディスクアイコン]→[画像ファイル]の順にダブルクリックすると画像が開く。

パソコンとの接続を切断するには

以下の操作を行いたいときは、ここで説明する手順をあらかじめ行ってください。
- マルチ端子専用ケーブルを抜く
- "メモリースティック デュオ"を取り出す
- 内蔵メモリーからのコピーを終了して、"メモリースティック デュオ"を本機に入れる
- 本機の電源を切る

"メモリースティック デュオ"またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップする。

パソコンとの接続が切断されました。

- Mac OS X v10.0の場合は、Macintoshの電源を切ってから作業を行う。

「Music Transfer」を使ってBGMの追加/入れ換えをする

「Music Transfer」を使って、出荷時から本機に用意されているBGMファイルをお好みの曲と入れ換えることができます。また、BGMファイルの削除や追加を行うこともできます。

「Music Transfer」で取り込むことができる曲の種類は下記のとおりです。
- パソコンのハードディスクに保存されたMP3ファイル
- 音楽CDの曲
- 工場出荷時に本機に保存されている曲

「Music Transfer」をインストールするには

- インストール前に使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。
- インストールするにはコンピューターの管理者権限が必要です。

① Macintoshに電源が入った状態で、CD-ROM(付属)をディスクドライブに入れる。

② (CYBERSHOTSOFT)をダブルクリック。

③ [Mac]フォルダの中の[MusicTransfer.pkg]をダブルクリックする。

インストールが始まる。

BGMファイルの追加/入れ換えをするには

76ページの「Music Transfer」を使ってBGMの追加/入れ換えをする」をご覧ください。

テクニカルサポート

その他のサポート情報や、製品に関するお問い合わせは、こちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

静止画をプリントするには

[16:9]で撮影した画像は、プリント時に両端が切れる場合があります。あらかじめご確認ください(96ページ)。

ダイレクトプリントする(PictBridge対応プリンター使用)(80ページ)

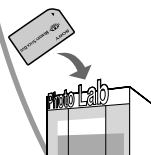
PictBridge対応プリンターに本機を直接接続してプリントします。

ダイレクトプリントする("メモリースティック"対応プリンター使用)

"メモリースティック"対応プリンターでプリントします。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

パソコンを使ってプリントする

CD-ROM収録のソフトウェア「Cyber-shot Viewer」を使って画像をパソコンに取り込んでから、プリントします。

お店でプリントする(84ページ)

プリントサービス店に、画像を撮影した"メモリースティック デュオ"を持参します。プリントしたい画像にあらかじめ(プリント予約)マークを付けておくこともできます。

ダイレクトプリントする(PictBridge対応プリンター使用)

PictBridge対応プリンターなら、本機で撮影した画像をパソコンなしでプリントできます。

PictBridge

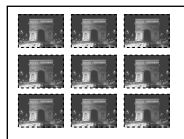
- 「PictBridge」は、「ピクトブリッジ」と読みます。カメラ映像機器工業会(CIPA)で制定された統一規格のことです。

シングルプリント

1枚のプリント用紙に1枚の画像をプリントします。

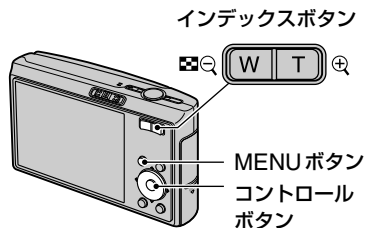
インデックスプリント

1枚のプリント用紙に複数の画像を縮小プリントします。1枚の画像を繰り返しプリントしたり(①)、選択した画像をインデックスプリント(②)できます。

①

②

- インデックスプリントはプリンターによっては対応していない場合があります。
- プリンターによって、1枚のインデックスプリントでプリントされる画像枚数は異なります。
- 動画はプリントできません。
- 本機の画面で が約5秒間点滅したら(プリンターからのエラー通知)、接続しているプリンターを確認してください。

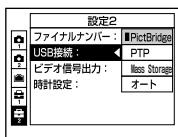
操作1:本機を準備する

本機とプリンターをUSB接続するために、本機を設定します。[USB接続]の[オート]モードで認識されるプリンターに接続する場合は、操作1は不要です。

- プリントの途中で電源が切れないように、充分に充電したバッテリーまたはACアダプター(別売)のご使用をおすすめします。

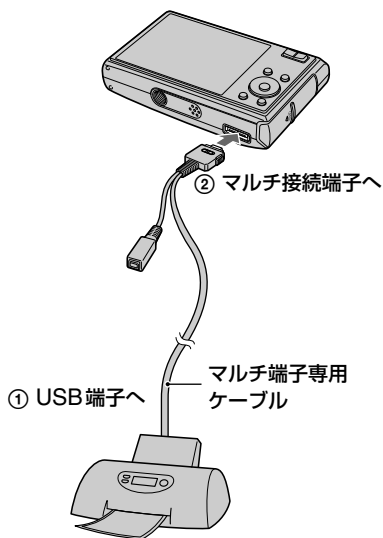
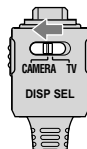
1 **MENUボタンを押し、メニューを表示する。**

2 **コントロールボタンの▶で[ ](セットアップ)を選ぶ。**

3 **コントロールボタンの▼で[ ](設定2)を選び、▲/▼/▶で[USB接続]を選ぶ。**

4 ►/▲で[PictBridge]を選び、中央の●を押す。

USB接続が設定される。

操作2：本機とプリンターをつなぐ

1 本機とプリンターを接続する。

2 マルチ端子専用ケーブルのスイッチを「CAMERA」にする。

3 本機とプリンターの電源を入れる。

接続が完了すると、画面にマークが表示される。

本機が再生モードになり、画像とプリントメニューが画面に表示される。

操作3：プリントする

モードスイッチの位置に関係なく、操作2が終わった時点で、画面にプリントメニューが表示されています。

1 コントロールボタンの▲/▼で希望のプリントの種類を選び、中央の●を押す。

[フォルダ内全て]

フォルダ内すべての画像をプリントする。

[DPOF画像]

表示されている画像と関係なく、🖨✓(プリント予約)マーク(84ページ)が付いているすべての画像をプリントする。

[選択]

画像を順に選ぶ。選んだすべての画像をプリントする。

① プリントしたい画像を◀/▶で選び、中央の●を押す。
選んだ画像に✔マークが付く。
  - 他の画像も選ぶには、この手順を繰り返す。

② ▼で[プリント]を選び、中央の●を押す。

[この画像]

表示されている画像をプリントする。

- この項目で[この画像]を選び、次の手順2の[インデックス]を[入]にすると、1枚の画像を繰り返しインデックスプリントします。

2 ▲/▼/◀/▶でプリント設定する。

[インデックス]

インデックスプリントするときは[入]を選ぶ。

[サイズ]

用紙サイズを選ぶ。

[日付]

日付を挿入するときは[年月日]または[日時分]を選ぶ。

- [日付]で[年月日]を選んだ場合、*→別冊「はじめに」手順2*で選んだ表示順の年月日が挿入されます。ただし、プリンターによっては対応していない場合があります。

[枚数]

– [インデックス]が[切]のとき:
  画像のプリント枚数を設定。シングルプリントされます。

– [インデックス]が[入]のとき:
  選択した画像のインデックスプリント枚数を設定。手順1で[この画像]を選んだときは、同じ画像を1枚の用紙に並べる数になります。

- インデックスプリント時、画像の枚数によっては、1枚の用紙に指定枚数分の画像が収まらないことがあります。

3 ▼/▶で[実行]を選び、中央の●を押す。

画像がプリントされる。

- (PictBridge接続中)マークが画面に表示されているときは、マルチ端子専用ケーブルを抜かないでください。

他の画像をプリントするには

手順3のあと、▲/▼で[選択]を選んで画像を選び、手順1から行う。

インデックス画面でプリントするには

「操作1：本機を準備する」（80ページ）と「操作2：本機とプリンターをつなぐ」（81ページ）のあと、以下を行ってください。

本機とプリンターを接続すると、プリントメニューが表示されます。[キャンセル]を押してプリントメニューを消してから下記の手順を行ってください。

① ▦（インデックス）ボタンを押す。
インデックス画面が表示される。

② MENUボタンを押す。
メニューが表示される。

③ ▶で[🖶]（プリント）を選び、中央の●を押す。

④ ▲/▼で希望のプリント種類を選び、中央の●を押す。

[選択]
画像を順に選ぶ。選んだすべての画像をプリントする。

プリントしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押して✔マークを付ける。（他の画像も選ぶには、この手順を繰り返す。）次に、MENUボタンを押す。

[DPOF画像]
表示されている画像と関係なく、🖶✔（プリント予約）マークが付いているすべての画像をプリントする。

[フォルダ内全て]
フォルダ内のすべての画像をプリントする。

⑤「操作3：プリントする」（81ページ）の手順2～3を行う。

お店でプリントする

画像を撮影した"メモリースティック デュオ"をプリントサービス店に持参します。DPOF規格対応のお店でプリントするときは、(プリント予約)マークを付けて、プリントしたい画像を本機であらかじめ予約できます。

- 内蔵メモリー内の画像は、プリントサービス店で直接カメラからプリントすることはできません。"メモリースティック デュオ"にコピーして、プリントサービス店にお持ちください。

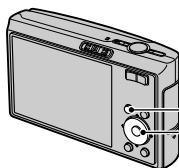
DPOF(ディーポフ)規格とは

Digital Print Order Formatの略です。(プリント予約)マークを付けて、プリントしたい画像を"メモリースティック デュオ"上に指定することができます。

- DPOF対応プリンター、PictBridge対応プリンターでも、プリント予約マークを付けた画像をプリントできます。
- 動画はプリント予約マークが付けられません。
- マルチ連写で撮影した画像は、16分割された1枚の画像としてプリント予約マークが付きます。

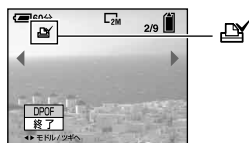
お店に"メモリースティック デュオ"を持参するときには

- 対応している"メモリースティック デュオ"の種類はお店にお問い合わせください。
- "メモリースティック デュオ"に対応していないプリントサービス店の場合は、CD-Rなどに画像データをコピーして持参してください。
- メモリースティック デュオ アダプターも持参してください。
- プリントサービス店をご利用前に、必ずデータのバックアップを取ってください。
- プリント枚数の設定はできません。

シングル画面でプリント予約マークを付ける

1 予約したい画像を表示する。

2 MENUボタンを押し、メニューを表示する。

3 コントロールボタンの◀/▶で[DPOF]を選び、中央の●を押す。

画像に(プリント予約)マークが付く。

4 他の画像にもマークを付けたいときは、◀/▶でマークを付けたい画像を表示させ、中央の●を押す。

シングル画面でプリント予約マークを消すには

手順3または4で中央の●を押す。

インデックス画面でプリント予約マークを付ける

1 **インデックス画面にする。（→*別冊「はじめに」手順6*）**

2 **MENUボタンを押し、メニューを表示する。**

3 **コントロールボタンの◀/▶で[DPOF]を選び、中央の●を押す。**

4 **▲/▼で[選択]を選び、中央の●を押す。**

- [フォルダ内全て]ではマークを付けられません。

5 **マークを付けたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す。**

画像に緑色のマークが付く。

緑色の
マーク

6 **他の画像にもマークを付けたいときは、手順5を繰り返す。**

7 **MENUボタンを押す。**

8 **▶で[実行]を選び、中央の●を押す。**

マークが白色に変わる。

中止するには、手順4で[キャンセル]、または手順8で[終了]を選んで中央の●を押す。

インデックス画面でプリント予約マークを消すには

手順5でマークを消したい画像を選び、中央の●を押す。

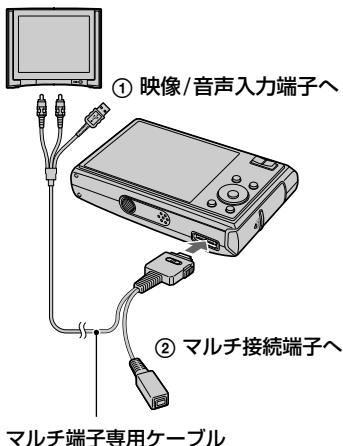
フォルダ内の全画像の予約マークを消すには

手順4で[フォルダ内全て]を選び、中央の●を押し、次に[切]を選んで●を押す。

テレビで見る

本機とテレビをつないで、撮影した画像をテレビで見ることができます。

本機とテレビの電源を切った状態で接続してください。

1 本機とテレビを接続する。

マルチ端子専用ケーブル

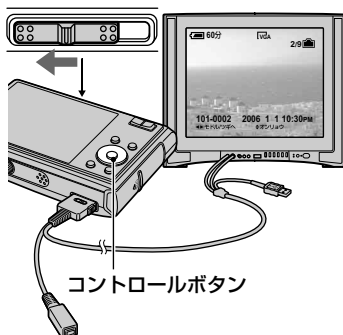
- 本機を置くときは、画面を上にする。
- テレビの音声入力端子がステレオタイプのときはマルチ端子専用ケーブルの音声プラグ（黒）を左音声端子に接続する。

2 マルチ端子専用ケーブルのスイッチを「TV」にする。

3 テレビの電源を入れ、テレビ/ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする。

- 詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

4 本機のモードスイッチを「▶」にして、電源を入れる。

モードスイッチ

撮影した画像がテレビに表示される。

コントロールボタンの◀/▶で画像を選ぶ。

- 海外で見るときは[ビデオ信号出力]の切り換えが必要な場合があります（60ページ）。

故障かな?と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

❶ 88 ~ 98ページの項目をチェックし、本機を点検する。

画面に「C/ E : □□ : □□」のような表示が出たときは、99ページをご覧ください。

❷ バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

❸ 設定リセットをする(58ページ)。

❹ デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページで確認する。

http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

❺ テクニカルインフォメーションセンターに電話で問い合わせる(裏表紙)。

• 内蔵メモリーやBGM機能を搭載した機種を修理に出した場合、内蔵メモリーやBGMの内容を確認させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみをカメラ下部側に押して入れる（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- 正しい向きに入れる（→*別冊「はじめに」手順1*）。

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です（104ページ）。
- 残量表示と実際の残量にズレが生じています。バッテリーを一度使い切ってから充電すると正しい表示に戻ります。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーの寿命です（104ページ）。新しいバッテリーと交換する。

バッテリーの消耗が早い。

- 充分に充電する（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- 温度が極端に低いところで使用しているときの現象です（104ページ）。
- バッテリー端子が汚れていると、充電が充分できません。綿棒などで掃除する。
- バッテリーの寿命です（104ページ）。新しいバッテリーと交換する。

電源が入らない。

- バッテリーが正しく取り付けられているか確認する（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーの寿命です（104ページ）。新しいバッテリーと交換する。

電源が途中で切れる

- 操作しない状態が3分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる。電源を入れ直す（→*別冊「はじめに」手順2*）。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）。

静止画/動画を撮る

撮影できない。

- 内蔵メモリーまたは"メモリースティック デュオ"の空き容量を確認する(21、22ページ)。いっぱいのときは、下記のいずれかを行う。
  - 不要な画像を削除する(→*別冊「はじめに」手順6*)。
  - "メモリースティック デュオ"を交換する。
- "メモリースティック デュオ"の誤消去防止スイッチを解除する(102ページ)。
- フラッシュ充電中は撮影できません。
- 静止画撮影時は、モードスイッチを「📷」にする。
- 動画撮影時は、モードスイッチを「🎞」にする。
- 動画撮影時、画像サイズが[640(ファイン)]になっているときは、下記いずれかを行う。
  - 画像サイズを[640(ファイン)]以外にする。
  - "メモリースティック PRO デュオ"を入れる(102ページ)。

画面に被写体が写らない。

- モードスイッチを「▶」以外にする(25ページ)。

撮影に時間がかかる。

- NRスローシャッター機能が働いている(17ページ)。故障ではありません。

ピント(フォーカス)が合わない。

- 被写体が近すぎるためです。🌷(マクロ撮影)モードにし、最短撮影距離(W側約8cm、T側約25cm)より離して撮影する。または、🌷🔍(拡大鏡モード撮影)にして、被写体までの距離を約1cmから20cm離してピントを合わせてください(→*別冊「はじめに」手順5*)。
- 静止画撮影時、🌷🔍(拡大鏡モード撮影)、またはシーンセレクションの☽(夜景モード)、▲(風景モード)、🎆(打ち上げ花火モード)が選ばれていると、ピントが合わない場合があります。
- フォーカスプリセットになっているときは、オートフォーカスに戻す(34ページ)。
- 「ピントが合わないときは」(35ページ)をご覧ください。

光学ズームができない。

- 🌷🔍(拡大鏡モード撮影)時、光学ズームは使えません。

プレシジョンデジタルズームができない。

- [デジタルズーム]を[プレシジョン]にする(49ページ)。
- 動画撮影時はプレシジョンデジタルズームできません。

スマートズームができない。

- ［デジタルズーム］を［スマート］にする（49ページ）。
- 下記のとき、スマートズームできません。
  – 画像サイズが［7M］、［3:2］
  – マルチ連写時
  – 動画撮影時

フラッシュ撮影ができない。

- フラッシュの設定が ⓢ（フラッシュ発光禁止）になっている（→*別冊「はじめに」手順5*）。
- 以下のときは、フラッシュ撮影できません。
  – ［Mode］（撮影モード）が［連写］、［ブラケット］または［マルチ連写］のとき（38ページ）
  – シーンセレクションの ISO（高感度モード）、☽（夜景モード）、（打ち上げ花火モード）が選ばれているとき（26ページ）
  – モードスイッチが「」のとき
- （拡大鏡モード撮影）、またはシーンセレクションの（風景モード）、（スノーモード）、（ビーチモード）、（高速シャッターモード）が選ばれているときは、（フラッシュ強制発光）にする（→*別冊「はじめに」手順5*）。

フラッシュ撮影した画像に、ぼんやりとした丸い斑点が写っている。

- 空気中のホコリがフラッシュの強い光に反射して写りこんだためです。故障ではありません。

近接撮影ができない。

- シーンセレクションの☽（夜景モード）、（風景モード）、（打ち上げ花火モード）が選ばれているときは、近接撮影できません（26ページ）。

撮影日時が表示されない。

- 撮影時には、日付は表示されません。再生時のみ表示されます。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせる（→*別冊「はじめに」手順2*）。

シャッターを半押しするとＦ値、シャッタースピードが点滅する。

- 露出が合っていません。露出補正する（33ページ）。

画像が暗い。

- 逆光になっています。測光モード選択（36ページ）、または露出補正（33ページ）する。
- 画面が暗いときは、LCDバックライトの明るさを調節する（20ページ）。

画像が明るい。

- 舞台など暗いところでスポットライトが当たっている状態で撮影しています。露出補正する（33ページ）。
- 画面が明るすぎるときは、LCDバックライトの明るさを調節する（20ページ）。

画像の色が正しくない。

- ［COLOR］（カラーモード）を［標準］にする（32ページ）。

明るい被写体を写すと、縦に尾を引いたような画像になる。

- スミアという現象です。故障ではありません。

暗い場所で画面を見ると画像にノイズが目立つ。

- 暗い場所でも確認できるように、画面を一時的に明るくする機能が働いています。撮影される画像には影響ありません。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにする（50ページ）。
- 被写体に近づいてフラッシュ推奨撮影距離内（→*別冊「はじめに」手順5*）で撮影する。
- 室内を明るくして撮影する。

画面に点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません（9ページ、→*別冊「はじめに」*）。

連写できない。

- 内蔵メモリーまたは"メモリースティック デュオ"の容量がいっぱいです。不要な画像を削除する（→*別冊「はじめに」手順6*）。
- バッテリーの残量が足りない。充電されたバッテリーを取り付ける。

画像を見る

「パソコン」（93ページ）もあわせてご覧ください。

再生できない。

- モードスイッチを「▶」にする（25ページ）。
- パソコンでフォルダ/ファイルの名前を変更したためです（71ページ）。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- USBモードになっています。USB接続を終了する（69ページ）。

撮影日時が表示されない。

- [□]（画面表示切り換え）ボタンでオフにしている（20ページ）。

表示直後に再生画像が粗い。

- 画像処理のため、表示直後は画像が粗くなります。故障ではありません。

USB接続したとき、画面に画像が出ない。

- マルチ端子専用ケーブルのスイッチが「TV」に設定されている。ケーブルをはずすか、スイッチを「CAMERA」に設定し直す（65ページ）。

テレビに画像が出ない。

- [ビデオ信号出力]が[NTSC]になっているか確認する（60ページ）。
- 接続が正しいか確認する（86ページ）。
- マルチ端子専用ケーブルのスイッチが「CAMERA」に設定されている。「TV」に設定し直す（86ページ）。

画像を削除する/編集する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除する（42ページ）。
- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"を使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除してください（102ページ）。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。画像にプロテクトをかける（41ページ）か、誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"を使用し、スイッチを「LOCK」にする（102ページ）と誤消去を防げます。

リサイズができない。

- 動画/マルチ連写画像はリサイズできません。

プリント予約マークが付かない。

- 動画にはプリント予約マークを付けられません。

動画を分割できない。

- 充分な長さ（約2秒間）のない動画は分割できません。
- 画像のプロテクトを解除する（42ページ）。
- 静止画は分割できません。

パソコン

パソコンとの接続方法や最新サポート情報はデジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認する（62、77ページ）。

USB接続をしたとき、本機の画面に何も表示されない。

- マルチ端子専用ケーブルのスイッチが「TV」に設定されている。「CAMERA」に設定し直す（65ページ）。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認する（→*別冊「はじめに」手順2*）。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）、またはACアダプターを使用する（15ページ）。
- 接続には、マルチ端子専用ケーブル（付属）を使う（65ページ）。
- 一度パソコンと本機からマルチ端子専用ケーブルを抜いて再びしっかりと差し込み、「USBモード Mass Storage」と表示されているか確認する（65ページ）。
- [USB接続]を[Mass Storage]にする（59ページ）。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずす。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続する（65ページ）。
- ソフトウェア（付属）をインストールする（63ページ）。
- ソフトウェア（付属）をインストールする前に、マルチ端子専用ケーブルで本機とパソコンを接続したため、デバイスが正しく認識されていない。正しく認識されなかったデバイスを削除してからUSBドライバーをインストールする（次の項目）。

本機とパソコンをUSB接続しても、パソコン画面に「リムーバブルディスク」が表示されない。

- 下記の手順をパソコンで行い、USBドライバーをインストールし直す。
  以下は、Windowsパソコンの手順です。
  1. [マイコンピュータ]を右クリックしてメニューを表示し、[プロパティ]をクリック。
     「システムのプロパティ」画面が表示される。
  2. [ハードウェア]タブ→[デバイスマネージャ]の順にクリック。
     • Windows Meをお使いの場合は、[デバイスマネージャ]タブをクリック。
     「デバイスマネージャ」が表示される。
  3. [Sony DSC]を右クリックし、[削除]→[OK]の順にクリック。
     デバイスが削除される。
  4. ソフトウェアをインストールする（63ページ）。
     USBドライバーもインストールされます。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続する（65ページ）。
- OSに対応した手順でコピーする（66、77ページ）。
- パソコンでフォーマットした"メモリースティック デュオ"で撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットした"メモリースティック デュオ"で撮影する（54ページ）。

USB接続をしたときに「Cyber-shot Viewer」が自動起動しない。

- メディア監視ツールを起動する（72ページ）。
- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をする（65ページ）。

画像を再生できない。

- 「Cyber-shot Viewer」をお使いの場合は、ヘルプをご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生すると画像や音が途切れる。

- 内蔵メモリーまたは"メモリースティック デュオ"から直接再生すると、画像や音が途切れます。パソコンのハードディスクに動画をコピーして、ハードディスクのファイルを再生する（64ページ）。

画像をプリントできない。

- プリンターの設定を確認する。

パソコンからコピーした画像ファイルが本機で見られない。

- 101MSDCFなど本機で認識するフォルダにコピーする（69ページ）。
- 正しい手順で操作する（71ページ）。

Cyber-shot Viewer

「Cyber-shot Viewer」で画像が正しく表示されない。

- 表示したい画像があるフォルダが「閲覧フォルダ」に登録されていることを確認する。フォルダが「閲覧フォルダ」に登録されていても画像が表示されない場合、データベースを更新してください（75ページ）。

「Cyber-shot Viewer」で取り込んだ画像が見つからない。

- 「マイピクチャ」フォルダをご覧ください。
- 初期設定を変更したい場合は、75ページの「「取り込み先フォルダ」を変更するには」をご覧いただき、「取り込み先フォルダ」をご確認ください。

「取り込み先フォルダ」を変更したい。

- 「取り込み先フォルダ」は、取り込みの設定画面から変更できます。取り込み先フォルダは「Cyber-shot Viewer」の「閲覧フォルダ」として登録されているフォルダから指定できます(75ページ)。

取り込んだ画像が、すべてカレンダー上で1月1日に表示される。

- 本機の日付が設定されていません。日付を設定してください(*→別冊「はじめに」手順2*)。

"メモリースティック デュオ"

本機に入らない。

- 正しい向きで入れる(*→別冊「はじめに」手順3*)。

記録できない。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"を使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する(102ページ)。
- "メモリースティック デュオ"の容量がいっぱいになっているときは、不要な画像を削除する(*→別冊「はじめに」手順6*)。
- 動画を画像サイズ「640 (ファイン)」で撮影するときは、"メモリースティック PRO デュオ"を使用する(21ページ)。

フォーマットできない。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"を使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する(102ページ)。

誤ってフォーマットしてしまった。

- "メモリースティック デュオ"内のデータはすべて消去され、元に戻せません。誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"を使用し、スイッチを「LOCK」にする(102ページ)と誤フォーマットを防げます。

"メモリースティック"スロット付きパソコンで"メモリースティック PRO デュオ"が認識されない。

- パソコンおよびカードリーダーが"メモリースティック PRO デュオ"に対応しているかご確認ください。ソニーバイオをお使いの場合、サイバーショットのサポートページをご覧いただきますと、対応の有無が確認できます(裏表紙)。ソニー製以外のパソコンおよびカードリーダーをお使いの場合は、各メーカーにお問い合わせください。
- "メモリースティック PRO デュオ"非対応の場合は、本機をパソコンにつないでください(65、77ページ)。パソコンが"メモリースティック PRO デュオ"を認識します。

内蔵メモリー

内蔵メモリー内のデータが本機、またはパソコンで再生できない。

- 本機に“メモリースティック デュオ”が入っている。取りはずす*（→別冊「はじめに」手順4）*。

撮影した画像を内蔵メモリーに記録することができない。

- 本機に“メモリースティック デュオ”が入っている。取りはずす*（→別冊「はじめに」手順4）*。

内蔵メモリーのデータを“メモリースティック デュオ”にコピーしたのに、内蔵メモリーの容量が減らない。

- データをコピーしても、内蔵メモリー内のデータは削除されません。コピー後に改めて内蔵メモリーの［フォーマット］を行う（53ページ）。

内蔵メモリー内のデータを“メモリースティック デュオ”にコピーできない。

- “メモリースティック デュオ”の空き容量がない。空き容量を確認する（64MB以上推奨）。

“メモリースティック デュオ”やパソコンの画像を内蔵メモリーにコピーできない。

- “メモリースティック デュオ”やパソコンの画像は内蔵メモリーにコピーできません。

プリントする

次の「PictBridge対応プリンター」も合わせてご覧ください。

両端が切れてプリントされる。

- 画像サイズを［16：9］に設定して撮影した画像をプリントすると、画像の両端が切れてプリントされることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなし印刷機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

PictBridge対応プリンター

プリンターと接続できない。

- 本機は、PictBridge非対応プリンターには直接接続できません。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- プリンターの電源が入り、接続可能な状態になっていることを確認する。
- [USB接続]を[PictBridge]にする(59ページ)。
- マルチ端子専用ケーブルを抜いて、接続し直す。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

USB接続をしたとき、本機の画面に何も表示されない。

- マルチ端子専用ケーブルのスイッチが「TV」に設定されている。「CAMERA」に設定し直す(81ページ)。

プリントできない。

- 本機とプリンターがマルチ端子専用ケーブルで正しく接続されているか確認する。
- プリンターの電源が入っているか確認する。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- プリント中に「終了」を選ぶと、再びプリントできない場合があります。マルチ端子専用ケーブルを抜いて、接続し直す。それでも復帰しないときは、マルチ端子専用ケーブルをもう一度抜き、プリンターの電源を入れ直してから接続し直す。
- 動画はプリントできません。
- 本機以外で撮影した静止画、またはパソコンで加工した画像はプリントできない場合があります。

プリントが中断される。

- (PictBridge接続中)マークが消える前に、マルチ端子専用ケーブルを抜いた。

日付挿入/インデックスプリントができない。

- プリンターが日付挿入/インデックスプリントに対応してない。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- プリンターによっては、インデックスプリントでは日付が挿入されない場合があります。プリンターのメーカーにお問い合わせください。

日付部分に「---- -- --」などが印刷される。

- 画像ファイルに印刷可能な撮影日時情報が入っていない。[日付]を[切]にしてプリントしてください(82ページ)。

プリントしたい用紙サイズが選択できない。

- プリンターがプリントしたい用紙サイズに対応しているか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。

プリンターの用紙サイズどおりに印刷できない。

- 本機とプリンターを接続したあとにプリンターの用紙を別のサイズの用紙と取り換えた場合は、一度マルチ端子専用ケーブルを抜いてプリンターを接続し直してください。
- 本機での印刷設定と、プリンターの設定が合っていない。本機の用紙サイズ設定を変更する（82ページ）か、プリンターの用紙設定を変更する。

印刷を中止すると、他の操作ができない。

- プリンターが印刷中止の処理をしているので、しばらくお待ちください。プリンターによっては時間がかかることがあります。

その他

操作を受け付けない。

- 本機で使えるバッテリーを使う（104ページ）。
- ⌂ 表示時は、バッテリー残量が少ない。充電する（→*別冊「はじめに」手順1*）。

電源が入っているのに操作できない。

- 内部システムが誤動作しています。バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

画面上の表示がわからない。

- 16ページをご覧ください。

レンズがくもる。

- 結露している。電源を切って約1時間そのままにしてから使用する（106ページ）。

長時間使用すると、本機が熱くなる。

- 故障ではありません。

電源を入れると、時刻設定画面が表示される。

- 時刻を設定し直す（→*別冊「はじめに」手順2*）。

自己診断表示と警告表示

自己診断表示

画面にアルファベットで始まる表示が出たら、本機の自己診断機能が働いています。表示の末尾2桁(□□)の数字は、本機の状態によって変わります。
下記の対処を2、3度繰り返しても正常な状態に戻らないときは、修理が必要な場合があるのでテクニカルインフォメーションセンターにご相談ください(裏表紙)。

C:32:□□

- ハードウェアの異常。電源を入れ直す。

C:13:□□

- データが読めない/書けない。電源を入れ直すか“メモリースティック デュオ”を数回抜き差しする。
- 内蔵メモリーがフォーマットエラーのままである。または、フォーマットしていない“メモリースティック デュオ”を入れた。フォーマットする(54ページ)。
- 本機では使えない“メモリースティック デュオ”を入れた。またはデータが壊れている。“メモリースティック デュオ”を交換する(102ページ)。

E:61:□□

E:62:□□

E:91:□□

- 何らかの異常が起きている。設定リセット(58ページ)してから、電源を入れる。

警告表示

画面には、次のような表示が出ることがあります。

(バッテリー残量表示)

- バッテリーの残量が少ない。すぐにバッテリーを充電する(→*別冊「はじめに」手順1*)。ご使用状況やバッテリーの種類によっては、バッテリー残量が5分から10分でも点滅することがあります。

“インフォリチウム”バッテリーを使ってください

- “インフォリチウム”対応以外のバッテリーを使っている。

システムエラー

- 電源を入れ直す(→*別冊「はじめに」手順2*)。

内蔵メモリーエラー

- 電源を入れ直す(→*別冊「はじめに」手順2*)。

メモリースティックを入れなおしてください

- “メモリースティック デュオ”を入れ直す。
- 本機では使えない“メモリースティック デュオ”が入っている(102ページ)。
- “メモリースティック デュオ”が壊れている。
- “メモリースティック デュオ”端子が汚れている。

非対応のメモリースティックです

- 本機では使えない"メモリースティック デュオ"が入っている（102ページ）。

フォーマットエラー

- フォーマットし直す（53、54ページ）。

メモリースティックがロックされています

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"を使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する（102ページ）。

内蔵メモリーの残量がありません
メモリースティックの残量がありません

- 不要な画像やデータを消去する（→*別冊「はじめに」手順6*）。

読み出し専用のメモリースティックです

- この"メモリースティック デュオ"への画像記録や消去はできません。

ファイルがありません

- 内蔵メモリー内に画像が記録されていない。

このフォルダにはファイルがありません

- フォルダ内に画像が記録されていない。
- パソコンからのファイルコピー方法が正しくない（71ページ）。

フォルダエラー

- 上3桁の番号が同じフォルダが"メモリースティック デュオ"内にある（例：123MSDCFと123ABCDE）。別のフォルダを選択するか、フォルダを作成する（54ページ）。

これ以上フォルダ作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダが"メモリースティック デュオ"内にある。本機でこれ以上のフォルダを作成できません。

記録できません

- 本機で記録フォルダに設定できないフォルダを選択した。他のフォルダを選択する（55ページ）。

ファイルエラー

- 画像再生時に異常が発生した。

ファイルがプロテクトされています

- プロテクトを解除する（42ページ）。

画像サイズオーバーです

- 本機で再生できないサイズの画像を再生しようとしている。

分割できません

- 分割できる充分な長さ（約2秒以上）がない。
- 動画ではない。

無効な操作です

- 本機に対応していないファイルを再生しようとしている。

（手ぶれ警告表示）

- 光量不足のため、手ぶれが起こりやすい状況になっているので、フラッシュを使用したり、手ぶれ補正をオンにする。または、三脚などで本機をしっかりと固定する。

640（ファイン）に対応していません

- ［640（ファイン）］の動画に対応しているのは“メモリースティック PRO デュオ”のみ。“メモリースティック PRO デュオ”を入れるか、画像サイズを［640（ファイン）］以外に設定する。

接続先を確認してください

- 本機の設定が［PictBridge］になっているのに、PictBridgeに対応していない機器と接続している。接続している機器を確認する。
- 接続が確立できない。マルチ端子専用ケーブルを抜いて、接続し直す。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

PictBridge機器と接続してください

- プリンターと接続する前にプリントしようとした。PictBridge対応のプリンターと接続する。

プリントできる画像がありません

- プリント予約マークを付けないで［DPOF画像］を実行しようとした。
- 動画しか入っていないフォルダを選んで、［フォルダ内全て］を実行しようとした。動画はプリントできません。

プリンタービジー

用紙エラー

用紙がなくなりました

インクエラー

インクが少なくなりました

インクがなくなりました

- プリンターを確認する。

プリンターエラー

- プリンターを確認する。
- プリントしたい画像が壊れていないか確認する。

⊏☓⊳

- 接続しているプリンターへのデータ転送が完了していない可能性がある。マルチ端子専用ケーブルを抜かないでください。

処理中

- プリンターが印刷中止処理を行っている。処理が完了するまでは印刷できません。プリンターによっては処理に時間がかかることがあります。

スライドショーできる画像がありません

- BGM付きスライドショー時にスライドショーできるファイルが存在しないフォルダを選択している。

BGMエラー

- 選択したBGMデータを削除するか、正常なデータと入れ換える。
- ［BGMフォーマット］をしてから、正常なデータをダウンロードする（57ページ）。

BGMフォーマットエラー

- BGMフォーマットし直す（57ページ）。

"メモリースティック"について

"メモリースティック"は、小さくて軽いIC記録メディアです。"メモリースティック"のうち、本機で使えるのは下表のとおりです。ただし、すべての"メモリースティック"の動作を保証するものではありません。

"メモリースティック"の種類	記録・再生
メモリースティック（マジックゲート非対応）	–
メモリースティック（マジックゲート対応）	–
メモリースティック デュオ（マジックゲート非対応）	○
メモリースティック デュオ（マジックゲート対応）	○*1*2
マジックゲート メモリースティック	–
マジックゲート メモリースティック デュオ	○*1
メモリースティック PRO	–
メモリースティック PRO デュオ	○*1*2*3

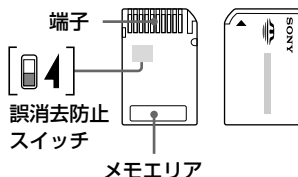
*1 マジックゲート搭載の"メモリースティック デュオ"です。"マジックゲート"とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。

*2 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

*3 動画の[640（ファイン）]の記録ができます。

- パソコンでフォーマットした"メモリースティック デュオ"は、本機での動作を保証しません。
- お使いの"メモリースティック デュオ"と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。

"メモリースティック デュオ"（別売）使用上のご注意

- 誤消去防止スイッチを先の細いものでスライドさせて「LOCK」にすると記録や編集、消去ができなくなります。

誤消去防止スイッチの有無や位置、形状は、お使いの"メモリースティック デュオ"によって異なることがあります。

- データの読み込み中、書き込み中には"メモリースティック デュオ"を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  – 読み込み中、書き込み中に"メモリースティック デュオ"を取り出したり、本機の電源を切った場合
  – 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- "メモリースティック デュオ"本体およびメモリースティック デュオ アダプターにラベルなどを貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。

• 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。
• 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  – 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  – 直射日光のあたる場所
  – 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

メモリースティック デュオアダプター（別売）使用上のご注意

• “メモリースティック デュオ”を“メモリースティック”対応機器でお使いの場合は、必ず“メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れてからお使いください。アダプターに装着されていない状態で挿入されますと“メモリースティック デュオ”が取り出せなくなる可能性があります。
• “メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れるときは正しい挿入方向をご確認のうえ、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不充分だと正常に動作しない場合があります。
• “メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに装着して“メモリースティック”対応機器でご使用になるときは、正しい挿入方向を確認のうえお使いください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
• メモリースティック デュオ アダプターに“メモリースティック デュオ”が装着されていない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

“メモリースティック PRO デュオ”（別売）使用上のご注意

• 本機で動作確認されている“メモリースティック PRO デュオ”は2GBまでです。

使用可能な“メモリースティック”についての最新情報は、ホームページ上の「メモリースティック対応表」をご確認ください（裏表紙）。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

本機は“インフォリチウム”バッテリー（Rタイプ）のみ使用できます。

“インフォリチウム”バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。

充電について

周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

• 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
• フラッシュ撮影、ズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消費が早くなります。
• 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
• バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
• 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、本機で使い切ってから再び満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。

バッテリーの保管方法について

• バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために、1年に1回程度満充電にして本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
• 本機でバッテリーを使い切るには、スライドショー（27ページ）を再生して、電源が切れるまでそのままにしてください。
• 本機から取り出したバッテリーは、接点汚れ、ショート等を防止するため、携帯、保管時は必ず付属のバッテリーケースをご使用ください。

バッテリーの寿命について

• バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをお買い上げください。
• 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

バッテリーチャージャーについて

バッテリーチャージャーについて

- 付属のバッテリーチャージャーで、ソニーInfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリー以外のバッテリーを充電しないでください。指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- 充電したバッテリーはバッテリーチャージャーから取り出してください。そのまま取り付けていると、バッテリーの寿命を損なうことがあります。
- CHARGEランプが点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入された場合が考えられます。指定のバッテリーかどうか確認してください。また、指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど、別のバッテリーを挿入してバッテリーチャージャーが正常に動作するか確認してください。バッテリーチャージャーが正常に動作する場合は、バッテリーの異常が考えられます。
- バッテリーチャージャーが汚れていると正常に充電できないことがあります。乾いた布などで汚れを拭き取ってください。

使用上のご注意

■ 使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温、低湿、または多湿になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■ 持ち運びについて

ズボンやスカートの後ろポケットに本機を入れたまま、椅子などに座らないでください。故障や破損の原因になります。

■ お手入れについて

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミが付いて汚れたときは、液晶クリーニングキット(別売)を使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする

レンズに指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

表面をきれいにする

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。

- シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
- 上記が手についたまま本機を扱うこと
- ゴムやビニール製品との長時間の接触

■ 動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0℃～ 40℃です。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

■ 結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

■ 内蔵の充電式電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切に関係なく保持するために充電式電池を内蔵しています。充電式電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

内蔵の充電式電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れるか、ACアダプター（別売）を使ってコンセントにつないで、電源を切ったまま24時間以上放置する。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーの充電方法

→*別冊「はじめに」手順1*

■ “メモリースティック デュオ”を破棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「削除」では、“メモリースティック デュオ”内のデータは完全には消去されないことがあります。破棄/譲渡の際は、“メモリースティック デュオ”本体を物理的に破壊するか、市販のパソコンによるデータ消去専用ソフトなどを使って“メモリースティック デュオ”内のデータを完全に消去することをおすすめします。

主な仕様

本体

[システム]

撮像素子	7.20 mm (1/2.5型) カラー CCD 原色フィルター
総画素数	約7 410 000画素
カメラ 有効画素数	約7 201 000画素
レンズ	カール ツァイス バリオ・テッサー 3倍ズームレンズ f=6.33 ～ 19.0 mm (35 mmカメラ換算では38 ～ 114 mm)、F3.5 ～ 4.3
露出制御	自動、シーンセレクション(9モード)
ホワイト バランス	オート、太陽光、曇天、 蛍光灯、電球、フラッシュ
記録方式 (DCF準拠)	静止画:Exif Ver. 2.21 JPEG準拠、DPOF対応 動画:MPEG1準拠(モノラル)
記録メディア	内蔵メモリー 58 MB "メモリースティック デュオ"
フラッシュ	推奨撮影距離(ISO感度がオートのとき)約0.1 ～ 3.4 m(W)/約0.25～2.7 m(T)

[入出力端子]

マルチ接続端子

USB通信	Hi-Speed USB(USB 2.0準拠)

[液晶画面]

液晶パネル	7.5 cm(3.0型)TFT駆動
総ドット数	230 400 (960×240)ドット

[電源・その他]

電源	リチャージャブルバッテリーパックNP-FR1、3.6 V ACアダプター AC-LS5K(別売)、4.2 V
消費電力(撮影時)	1.1 W
動作温度	0 ～ 40℃
保存温度	－20 ～ +60℃
外形寸法	95×56.5×23.3 mm (幅×高さ×奥行き、突起部を除く)
本体質量	約169 g(バッテリーNP-FR1、リストストラップなど含む)
マイクロホン	エレクトレットコンデンサマイクロホン
スピーカー	ダイナミックスピーカー
Exif Print	対応
PRINT Image Matching III	対応
PictBridge	対応

バッテリーチャージャー BC-CS3

定格入力	AC 100 ～ 240 V、 50/60 Hz、3.2 W
定格出力	DC4.2 V、500 mA
動作温度	0 ～ 40℃
保存温度	－20 ～＋60℃
外形寸法	約66×23×91 mm(幅×高さ×奥行き)
本体質量	約70 g

リチャージャブルバッテリーパック NP-FR1

使用電池	リチウムイオン蓄電池
最大電圧	DC 4.2 V
公称電圧	DC 3.6 V
容量	4.4 Wh(1 220 mAh)

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません
万一、デジタルスチルカメラや"メモリースティック デュオ"などの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています
このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書
- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス
■調子が悪いときはまずチェックを
"故障かな？と思ったら"の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときはテクニカルインフォメーションセンターにご相談ください(裏表紙)。

■保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■部品の交換について
この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

■部品の保有期間について
当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後7年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください(裏表紙)。

■修理をお受けになる前に
内蔵メモリーのバックアップをお取りください。データのバックアップ方法は、23ページをご覧ください。
修理によってデータが消去または変更された場合、記録内容の保障についてはご容赦ください。

安全のために

→ 3ページもあわせてお読みください。

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はテクニカルインフォメーションセンターにご依頼ください。

内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

機器本体や付属品、記録メディアは乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品や"メモリースティック"などを飲みこむおそれがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない

フラッシュ、AFイルミネーターなどの撮影補助光を至近距離で人に向けない

禁止

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブル、A/V接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。発光後も発光部に手を触れないでください。やけどの原因となります。

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

電池や付属品、記録メディア、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池や"メモリースティック"などが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがややけど、火災などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険

- 乾電池型充電式電池・バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。

禁止

⚠警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。
- アルカリ電池/ニッケルマンガン電池は充電しない。
- 外装シールをはがしたり、傷つけたりしない。外装シールの一部または、すべてをはがしてある電池や破れのある電池は絶対に使用しない。

禁止

⚠注意

- 電池は、+、−を確かめ、正しく入れる。
- 電池を使い切ったときや、長時間使用しない場合は機器から取り出しておく。

指示

- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池は混ぜて使わない。

禁止

お願い

リチウムイオン電池とニッケル水素電池はリサイクルできます。不要になったこれらの電池は、金属部分にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion
リチウムイオン電池

Ni-MH
ニッケル水素電池

充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店については

有限責任中間法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

用語の解説

インストール(61、63ページ)
ソフトウェアなどをコンピューターにコピーして組み込み、使用できる状態にすること。

"インフォリチウム"バッテリー(104ページ)
"インフォリチウム"対応機器とバッテリーの使用状況に関し、データ通信できるバッテリー。

オートパワーオフ機能(*→別冊「はじめに」手順2*)
電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機の電源が自動的に切れる機能。

拡張子(69、71ページ)
ファイルの種類を表す3～4文字の英数字のこと。ファイル名の末尾にピリオドで区切られた一番右側の部分。

画素(12ページ)
画像を構成する最小単位。画素数が多いほど画像サイズが大きくなり、画像の解像度が高くなる。

画像サイズ(12ページ)
画素数を縦×横で表示したサイズ。画像サイズが大きいと、画素数が多くなり画像の解像度が高くなる。

光学ズーム(49ページ)
レンズの焦点距離を変化させることにより撮影倍率を変化させる方式。レンズが移動することによって拡大・縮小するため、画質の劣化はない。

シャッタースピード(11ページ)
撮影時にCCDに光を当てる時間のこと。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写る。

スマートズーム(49ページ)
極めて画質劣化の少ない、画質を優先したデジタルズーム。光学ズームと同じような感覚で使える。ただし、最大ズーム倍率は設定している画像サイズによって異なる。

ドライバー(63ページ)
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピューター側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのこと。

ノイズ(11ページ)
CCDが光を受け取り信号として出力するまでの過程で発生する画像のざらつきのこと。

半押し(*→別冊「はじめに」手順5*)
シャッターボタンを押し込まず、半分押した状態にしておくこと。シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に合わせてピントと露出を自動で調整する。

ピント(34ページ)
被写体に対する焦点のこと。本機はピントを自動調整する。撮影距離を手動でも設定できる。

フォーマット（53、54ページ）
「初期化」ともいい、記録メディアにデータを書き込めるようにすること。フォーマットすると、記録メディアに保存されているデータはすべて消える。

フォルダ（41、54ページ）
本機で撮影した画像をまとめて格納する場所。目的別（イベント別）・日付別に画像を分類するときに便利。

プレシジョンデジタルズーム（49ページ）
ズーム倍率を優先したデジタルズーム。画像をデジタル処理することにより、画像サイズの設定に関係なく常に最大で光学ズーム倍率の2倍のズームが可能。画像サイズ、ズームポジションによっては、スマートズームより画質が劣化することがあるが、一般的なデジタルズームに比べて劣化の少ない画質が得られる。

ホワイトバランス（36ページ）
光源に合わせて色を調整する機能。被写体の見た目の色は光の状況に影響される。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく写る。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影できる。

“メモリースティック”（102ページ）
“メモリースティック”は小さくて軽いIC記録メディア。本機には、通常の“メモリースティック”より小型の“メモリースティック デュオ”を使用する。

有効画素数（108ページ）
CCDが光から電気信号に変換できる画素数。有効画素数から画像処理をしたものが記録画素数になる。

露出（11ページ）
絞りとシャッタースピードの値により決まる光量。

AE（35ページ）
「Auto Exposure」の略で、被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能。

AF（34ページ）
「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能。

CCD（108ページ）
「Charge Coupled Device」の略で、光を電気信号に変換する半導体の一種。

DCF（9ページ）
「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格。

DPOF（84ページ）
「Digital Print Order Format」の略。「ディーポフ」と読み、プリント予約したい写真を“メモリースティック デュオ”上に指定できる。

EV（33ページ）
「Exposure Value」の略で、露光量を表す単位。

Exif（108ページ）
（社）電子情報技術産業協会（JEITA）が制定した撮影情報などの付帯情報を追加できる静止画像用のファイルフォーマット。

ISO（37ページ）
「イソ」と読み、カメラフィルムの光に対する感応度で、ISO単位で表す。数値が大きいほど高感度に撮影できる。

JPEG（70ページ）
「ジェイペグ」と読み、インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存する。

Mass Storage（59ページ）
"メモリースティック"が入ったデジタルカメラ自体を、外付けの記憶装置として認識し、USB接続したパソコンから操作可能なモード。

MPEG（70ページ）
「エムペグ」と読み、カラー動画像の圧縮方式の1つ。品質の良い画像や高い圧縮形式が得られる。本機では、動画撮影時、MPEG形式で画像を保存する。

OS（62、77ページ）
「Operating System」の略。コンピューター全体を管理し、コンピューターを操作するのに必要な基本ソフトウェアのこと。

PictBridge（80ページ）
「ピクトブリッジ」と読み、カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格。PictBridge対応のプリンターと本機を接続して、画像ファイルをプリントできる。

PTP（59ページ）
「Picture Transfer Protocol」の略。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法。

USB（62、77ページ）
「Universal Serial Bus」の略。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格。

VGA（*→別冊「はじめに」手順4*）
「Video Graphics Array」の略。640×480の画像サイズのこと。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

アルファベット順

用語の解説／索引